

名古屋市精神保健福祉センター所報

第 23 巻 令和 5 年度版（2023 年度版）

名 古 屋 市

はじめに

日頃より名古屋市精神保健福祉センターの事業につきましてご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。令和5年度版の所報をお届けいたします。

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が第5類感染症に移行されましたが、収束には至っておらず、引き続き感染対策をしながらの事業運営となりました。

事業や会議等におきましても、オンラインやハイブリットでの開催と対面での開催を有効的に計画し、有意義な開催となったと思っております。今後も、事業や会議等の内容によって、実施形態を考慮し、一層充実した運営を行ってまいります。

さて、名古屋市では、ひきこもり支援の取り組みとして、令和5年度に「名古屋市生活状況に関する調査」を実施いたしました。その推計値は、名古屋市ではひきこもり状態にある方が約22,600人との結果となり、支援に関する課題がまとめられました。

令和5年10月には、名古屋市の委託により、「名古屋市ひきこもり地域支援センター金山」を開設いたしました。この調査結果を踏まえながら、当センター併設の「名古屋市ひきこもり地域支援センター」とお互いの強みを生かした連携を行いながら、引き続き、ひきこもり支援の充実を図ってまいります。

また、当センターの役割の一つとして、普及啓発事業がございます。

心の健康の保持増進や精神障害に関する正しい知識の普及を図るために、講演会などの開催や、パンフレットの発行を行っております。

11月に開催いたしました依存症講演会では、依存症等に関心をお持ち方はもちろんのこと、知る機会がなかった方等、多くの方に、講演会に来ていただき、依存症について理解を深めていただくことができました。今後も幅広い世代の方に、心の健康や精神障害に関する正しい知識をお持ちいただくために、普及啓発に努めてまいります。

これからも皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和6年9月

名古屋市精神保健福祉センター所長
宇佐美 寿江

目 次

第1章

基本理念、愛称公募・選定、沿革・	1
答申・報告・	16
施設・	20
組織・	22
予算・決算・	23

第2章

企画立案・	25
技術援助・	26
人材育成・	30
普及啓発・	41
調査研究・	45
精神保健福祉相談・	46
組織育成・	53
自殺対策・	56
うつ病の方を対象とした就労支援関連事業・	60
精神医療審査会の事務・	61
精神障害者保健福祉手帳及び自立支援医療(精神通院医療)の判定・ . . .	65
依存症対策・	71
ひきこもり地域支援センター・	82

第 1 章

基本理念

愛称公募・選定

沿革

答申・報告

施設

組織

予算・決算

基本理念

平成15年7月に「名古屋市精神保健福祉センター基本理念」を制定した。

名古屋市精神保健福祉センター基本理念

名古屋市精神保健福祉センターは、市民の精神保健の向上及び精神障害者の福祉の増進を図ること、並びにライフスタイルのあらゆる段階に生じる精神保健福祉に関する問題の解決を、市民が相互に支援することができる、地域社会づくりを促進していくことを目指します。

愛称公募・選定

1 愛称公募

精神保健福祉センターがより広く市民に親しまれ、気軽に利用できるように、精神保健福祉センター内に愛称募集事務局を設置し、平成18年9月から平成18年12月まで市民への公募をおこなった。

2 愛称選定

平成19年2月27日に名古屋市精神保健福祉センター愛称選定委員会を開催し、40名57案の中から「こころぼ」が選定された。「こころぼ」とは、心とcollaborate（共同で仕事する、協力する）をかけ合せた造語であり、心の健康について、いろいろな人と一緒に取り組んでいけたらという思いを込めている。

沿革

1 略譜（詳細は本所報第1巻を参照）

平成5～7年度	名古屋市精神保健指導センターあおばの里基本調査
平成6年3月	名古屋市精神保健対策検討会設置
平成6年11月	名古屋市精神保健対策検討会提言「今後の精神保健対策について-大都市特例への対応を中心に-」において、本市の地域精神保健対策の拠点となる精神保健センターの整備の必要性が記載される。
平成6年11月	「名古屋市障害者福祉新長期計画」において、精神保健に関する総合的技術センターとして、地域精神保健活動推進の中核となる機能を備えたものを整備する必要性が記載される。
平成7年3月	名古屋市精神保健指導センターあおばの里での精神科デイケアを休診する。

平成7年度	名古屋市精神保健指導センターあおばの里の基本調査が精神保健センターの基本調査に変更
平成7年8月	精神科デイケア検討会を設置し、今後の精神科デイケアのあり方について検討を行う。
平成7年9月	「名古屋市第3次推進計画」において、平成7年～9年度に精神保健福祉センターの設置の検討が計画される。
平成8年3月	精神科デイケア検討会から「今後の名古屋市精神保健指導センターのデイケアについて」提言
平成8年度	基本設計
平成8年4月	名古屋市精神保健指導センターあおばの里を当面の間、休止とする。
平成8年4月	名古屋市精神保健福祉審議会設置。審議会に名古屋市における地域精神保健福祉施策について諮問
平成8年12月	審議会から「名古屋市の精神保健福祉センターについてー都市型の地域精神保健福祉施策の推進についてー」答申。3つの基本的機能が求められるとともに、基本的考え方が示される。
平成9年3月	精神保健福祉センター業務検討会設置
平成9年度	実施設計
平成9年8月	精神保健福祉センター業務検討会報告。本市の精神保健福祉センターが志向すべき基本姿勢が示されるとともに、具体的に精神保健福祉センター業務がまとめられる。
平成10年7月	名古屋市精神保健指導センターあおばの里等解体工事開始
平成10年12月25日	起工式
平成10年12月	建築工事（～平成12月11月工事期間24か月）
平成11年11月	わかばの里デイケア評価検討会設置
平成12年3月	名古屋市精神保健福祉センター条例公布
平成12年3月	わかばの里デイケア評価検討会報告。公設デイケアについてパイロット的デイケア等のコンセプトが示される。
平成12年4月	健康福祉局障害福祉部障害福祉課に精神保健福祉センター開設準備担当の主事2名を配置
平成12年11月17日	開所式（中村保健所等複合施設合同開所式）
平成12年12月1日	名古屋市精神保健福祉センター開所
平成13年3月	名古屋市精神保健指導センター条例廃止
平成13年4月	主事2名を増員。全面的な業務開始
平成14年4月	主事1名を増員。精神医療審査会及び精神障害者保健福祉手帳・自立支援医療（精神通院医療）判定事務が移管される。
平成15年4月	主事1名を増員
平成15年7月	「名古屋市精神保健福祉センター基本理念」を制定
平成16年4月	精神医療審査会合議体を増（3合議体→4合議体）
平成18年9月	愛称の公募
平成19年2月	愛称「ここらば」の選定

平成19年4月	ひきこもり施策及び自殺対策施策の事務開始
平成23年5月	精神保健福祉センター業務検討会設置
平成24年1月	精神保健福祉センター業務検討会報告。今後の精神保健福祉センターの業務のあり方がまとめられる。
平成24年4月	機構改革（管理係・支援係）。主事1名を減員。ひきこもり支援コーディネーター2名配置
平成24年5月	ひきこもり地域支援センター開設
平成25年4月	精神医療審査会の退院等請求窓口が移管される。
平成29年4月	精神障害者保健福祉手帳・自立支援医療（精神通院医療）担当の嘱託員1名配置
平成30年6月	依存症相談員として嘱託員2名配置
平成30年7月	依存症相談拠点として位置付け、専用電話設置及び依存症関連事業の拡充
令和2年4月	機構改革（管理係1係制）。副所長（管理係長事務取扱）、主査（支援）を配置 会計年度任用職員制度の導入に伴い、それまでの嘱託員にかわり、会計年度ひきこもり支援コーディネーター2名、会計年度依存症相談員2名、会計年度精神障害者保健福祉手帳等判定事務専門員2名（うち、1名は増員）を配置
令和3年4月	会計年度ひきこもり支援コーディネーター1名を増員
令和4年4月	会計年度依存症相談員を1名増員
令和5年4月	令和5年1月に中村保健センターが移転したことに伴い、庁舎管理業務が移管される。業務士1名、会計年度内部事務員1名増員。 常勤の精神科医師が不在となったため、非常勤の精神科医師を参与として委嘱

2 開設後の年表

	平成12年度	平成13年度
体 制	センター開設（平成12年12月1日） 精神保健指導センター廃止（平成13年3月31日） 1係1主査10人体制	2人増員、2係12人体制
企画立案	関係会議参加	
技術援助	講師派遣	
	事例検討	
人材育成		新任精神保健福祉相談員研修 現任精神保健福祉相談員研修 精神障害者ケアマネジメント従事者養成研修 ケアマネジメントフォローアップ研修
	精神障害者小規模作業所指導員研修	
		精神障害者社会復帰施設等職員研修 薬物問題関係者研修会 精神障害者ホームヘルプサービス講習会 こころの健康電話相談員研修 精神保健福祉援助実習（学生実習）
	関係機関等研修	
普及啓発	心の健康講演会 市民向情報誌「シャチ・ほっと」 関係者向情報誌「シャチだより」 ホームページ開設・運営	ホームページ運営 精神保健福祉ガイドブック「ハートウォーミング」
調査研究		精神障害者の就労に関する調査
精神保健福祉相談	精神保健福祉相談（2/週） 思春期の精神保健相談（1/週） 高齢期心の健康相談（2/月） 薬物リハビリテーション相談（1/週） こころの健康電話相談	思春期家族教室 思春期親の会
組織育成	愛知県精神保健福祉協会 愛知デイ・ケア実施施設交流会 精神障害者家族会リーダー研修	精神保健福祉市民活動セミナー セミナーフォローアップ事業 ひきこもる若者たちへの支援事業
精 神 科 デイケア	わかばの里「生活自立コース」終了 わかばの里「就労援助コース」終了	就労支援コース
地域の実情 に応じた事業	交流事業（卓球大会） 内覧会 「利用案内」作成	交流事業（バスハイキング） 精神障害者家族交流大会

	平成14年度	平成15年度
体 制	1人増員、13人体制 精神医療審査会事務、公費負担・手帳の判定の移管	1人増員、14人体制 基本理念制定
企 画 立 案	関係会議参加	
技 術 援 助	講師派遣	
	事例検討	
人 材 育 成	新任精神保健福祉相談員研修	
	現任精神保健福祉相談員研修	
		精神保健福祉関係者研修
	精神障害者小規模作業所指導員研修	
	精神障害者社会復帰施設等職員研修	
	思春期精神保健関係者研修	
	薬物問題関係者研修会	
	精神障害者ケアマネジメント研修	
	精神障害者ホームヘルプサービス講習会	
	ホームヘルパーフォローアップ研修	
	こころの健康電話相談員研修	
	精神保健福祉援助実習(学生実習)	
普 及 啓 発	心の健康講演会	
	市民向情報誌「シャチ・ほっと」	
	関係者向情報誌「シャチだより」	
	ホームページ運営	
	精神保健福祉ガイドブック「ハートウォーミング」	
	心の健康サマーセミナー	心の健康モニター
調 査 研 究	精神障害者の就労に関する調査	
	ひきこもりに関する調査	
精 神 保 健 福 祉 相 談	精神保健福祉相談(2/週)	
	思春期の精神保健相談(1/週)	
	思春期家族教室	
	ひきこもりを考える家族の集い	
		ふくろう倶楽部
	高齢期心の健康相談(2/月)	
	薬物リハビリテーション相談(1/週)	
	薬物家族の会	
	こころの健康電話相談	
組 織 育 成	愛知県精神保健福祉協会	
	愛知デイ・ケア実施施設交流会	
	精神保健福祉市民活動セミナー	
	セミナーフォローアップ事業	
	ひきこもる若者たちへの支援事業	
	精神障害者家族会リーダー研修	
		薬物問題関係機関連絡会議
精 神 科 デ イ ケ ア	就労準備コース	
		精神障害者の就労準備に関する研修
地 域 の 実 情 に 応 じ た 事 業	交流事業(卓球大会)	
	交流事業(バスハイキング)	
	精神障害者家族交流大会	
精 神 医 療 審 査 会	事務の移管・実施	事務の実施
公 費 負 担 ・ 手 帳 の 判 定	判定の移管・実施	判定の実施

	平成16年度	平成17年度
体 制	14人体制	14人体制
企 画 立 案	関係会議参加	
技 術 援 助	講師派遣	
	事例検討	
人 材 育 成	新任精神保健福祉相談員研修	
	現任精神保健福祉相談員研修	
	精神保健福祉関係者研修	
	精神障害者小規模作業所指導員研修	
	精神障害者社会復帰施設等職員研修	
	思春期精神保健関係者研修	
	精神障害者ホームヘルプサービス講習会	薬物問題関係者研修会
	ホームヘルパーフォローアップ研修	
	こころの健康電話相談員研修	
	精神保健福祉援助実習(学生実習)	
		臨床医師研修
普 及 啓 発	心の健康講演会	
	市民向情報誌「シャチ・ほっと」	
	関係者向情報誌「シャチだより」	
	精神保健福祉に関するパンフレットの発行	
	思春期精神保健リーフレットの発行	
	ホームページ運営	
	精神保健福祉ガイドブック「ハートウォーミング」	
調 査 研 究	特定の課題に関する調査	
精 神 保 健 福 祉 相 談	精神保健福祉相談(2/週)	
	思春期の精神保健相談(1/週)	
	ひきこもりを考える家族の集い	
	ふくろう倶楽部	
	高齢期心の健康相談(2/月)	
	薬物リハビリテーション相談(1/週)	
	薬物家族の会	
	こころの健康電話相談	
組 織 育 成	愛知県精神保健福祉協会	
	愛知デイ・ケア実施施設交流会	
	精神保健福祉市民活動セミナー	
	セミナーフォローアップ事業	
	ひきこもる若者たちへの支援事業	
	精神障害者家族会リーダー研修	
	薬物問題関係機関連絡会議	
精 神 科 デ イ ケ ア	就労チャレンジコース	
	精神障害者の就労準備に関する研修	
地 域 の 実 情 に 応 じ た 事 業	交流事業(卓球大会)	
	交流事業(ハートウォーミングコンサート)	
	精神障害者家族交流大会	
精 神 医 療 審 査 会	事務の実施(合議体数の増3⇒4)	
公 費 負 担 ・ 手 帳 の 判 定	判定の実施	

	平成18年度	平成19年度
体 制	14人体制 愛称公募・選定	14人体制
企 画 立 案	関係会議参加	
技 術 援 助	講師派遣	
	事例検討	
人 材 育 成	新任精神保健福祉相談員研修	
	現任精神保健福祉相談員研修	
	精神保健福祉関係者研修	
	精神障害者小規模作業所指導員研修	精神障害のある方を支援対象としている障害福祉サービス事業者及び地域生活支援事業者等職員研修
	精神障害者社会復帰施設等職員研修	
	思春期精神保健関係者研修	
	薬物問題関係者研修会	
	こころの健康電話相談員研修	
	精神保健福祉援助実習(学生実習)	
	臨床医師研修	
普 及 啓 発	心の健康講演会	
	市民向情報誌「シャチ・ほっと」	情報誌「こころばNAGOYA」
	関係者向情報誌「シャチだより」	情報誌「こころばリーフレット」
	精神保健福祉に関するパンフレットの発行	
	思春期精神保健リーフレットの発行	
	ホームページ運営	
	精神保健福祉ガイドブック「ハートウォーミング」	
		ひきこもり講演会
		ひきこもりガイドマップ
調 査 研 究	特定の課題に関する調査	
精 神 保 健 福 祉 相 談	精神保健福祉相談(2/週)	
	思春期の精神保健相談(1/週)	思春期の精神保健相談(3/月)
	ひきこもりを考える家族の集い	
	ふくろう倶楽部	
	高齢期心の健康相談(2/月)	
	薬物リハビリテーション相談(3/月)	
	薬物家族の会	
	こころの健康電話相談	
		ひきこもり相談(1/月)
		自死遺族相談(1/月)
		うつ病家族教室
組 織 育 成	愛知県精神保健福祉協会	
	愛知デイ・ケア実施施設交流会	
	精神保健福祉市民活動セミナー	
	セミナーフォローアップ事業	
	精神障害者家族会リーダー研修	
	薬物問題関係機関連絡会議	
		ひきこもり支援関係団体連絡会議
精 神 科 デ イ ケ ア	就労チャレンジコース	
	精神障害者の就労準備に関する研修	
地 域 の 実 情 に 応 じ た 事 業	交流事業(卓球大会)	
	交流事業(ハートウォーミングコンサート)	
	精神障害者家族交流大会	
精 神 医 療 審 査 会	事務の実施	
公 費 負 担 ・ 手 帳 の 判 定	判定の実施	

	平成20年度	平成21年度
体 制	14人体制	14 人体制
企 画 立 案	関係会議参加	
技 術 援 助	講師派遣	
	事例検討	
人 材 育 成	新任精神保健福祉相談員研修	
	現任精神保健福祉相談員研修	
	精神保健福祉関係者研修	
	精神障害のある方を支援対象としている障害福祉サービス事業者及び地域生活支援事業者等職員研修	
	思春期精神保健関係者研修	
	薬物問題関係者研修会	
	こころの健康電話相談員研修	
	精神保健福祉援助実習(学生実習)	
	臨床医師研修	
普 及 啓 発	心の健康講演会	
	情報誌「こころばNAGOYA」	
	情報誌「こころばリーフレット」	
	精神保健福祉に関するパンフレットの発行	
	思春期精神保健リーフレットの発行	
	ホームページ運営	
	精神保健福祉ガイドブック「ハートウォーミング」	
	ひきこもり講演会	
	ひきこもり支援ガイドマップ	
調 査 研 究	特定の課題に関する調査	
精 神 保 健 福 祉 相 談	精神保健福祉相談(2/週)	
	思春期の精神保健相談(3/月)	
	ひきこもりを考える家族の集い	
	高齢期心の健康相談(2/月)	
	薬物リハビリテーション相談(3/月)	
	薬物家族の会	
	こころの健康電話相談	
	ひきこもり相談(1/月)	
	自死遺族相談(1/月)	
	うつ病家族教室	
組 織 育 成	愛知県精神保健福祉協会	
	愛知デイ・ケア実施施設交流会	
	精神保健福祉市民活動セミナー	
	セミナーフォローアップ事業	
	精神障害者家族会リーダー研修	
	薬物問題関係機関連絡会議	
	ひきこもり支援関係団体連絡会議	
精 神 科 デ イ ケ ア	うつ病ワークデザインコース	
	精神障害者の就労準備に関する研修	
地域の実情に 応じた事業	交流事業(卓球大会)	
	交流事業(ハートウォーミングコンサート)	
	精神障害者家族交流大会	
精 神 医 療 審 査 会	事務の実施	
公 費 負 担 ・ 手 帳 の 判 定	判定の実施	

	平成22年度	平成23年度
体 制	14人体制	14人体制
企 画 立 案	関係会議参加	精神保健福祉センター業務検討会
技 術 援 助	講師派遣 事例検討	
人 材 育 成	新任精神保健福祉相談員研修 現任精神保健福祉相談員研修 精神保健福祉関係者研修 精神障害のある方を支援対象としている障害福祉サービス事業者及び地域生活支援事業者等職員研修 思春期精神保健関係者研修 薬物問題関係者研修会 こころの健康電話相談員研修 ひきこもり支援セミナー 精神保健福祉援助実習(学生実習) 臨床医師研修	精神保健福祉関係職員研修
普 及 啓 発	心の健康講演会 情報誌「こころばNAGOYA」 情報誌「こころばリーフレット」 精神保健福祉に関するパンフレットの発行 思春期精神保健リーフレットの発行 ホームページ運営 精神保健福祉ガイドブック「ハートウォーミング」 ひきこもり支援ガイドマップ	
調 査 研 究	特定の課題に関する調査	
精 神 保 健 福 祉 相 談	精神保健福祉相談(2/週) 思春期の精神保健相談(3/月) ひきこもりを考える家族の集い 高齢期心の健康相談(2/月) 薬物リハビリテーション相談(3/月) 薬物家族の会 こころの健康電話相談 ひきこもり相談(1/月) 自死遺族相談(1/月) うつ病家族教室	
組 織 育 成	愛知県精神保健福祉協会 愛知デイ・ケア実施施設交流会 精神保健福祉市民活動セミナー セミナーフォローアップ事業 精神障害者家族会リーダー研修 薬物問題関係機関連絡会議 ひきこもり支援関係団体連絡会議	ボランティア活用術講座
精 神 科 デ イ ケ ア	うつ病ワークデザインコース うつ病就労支援研修	うつ病ワークステップコース
地域の実情に 応じた事業	交流事業(卓球大会) 交流事業(ハートウォーミングコンサート) 精神障害者家族交流大会	
精 神 医 療 審 査 会	事務の実施	
公費負担・ 手帳の判定	判定の実施	

	平成24年度	平成25年度
体 制	機構改革 1人減員、2係1主査13人体制	13人体制
企 画 立 案	関係会議参加	
技 術 援 助	講師派遣	
	事例検討	
人 材 育 成	精神保健福祉関係職員研修	
	思春期精神保健関係者研修	
	薬物問題関係者研修会	
	こころの健康電話相談員研修	
	精神保健福祉援助実習(学生実習)	
	臨床医師研修	
普 及 啓 発	こころの健康フェスタなごや(障害企画課)	
	情報誌「こころばNAGOYA」	
	情報誌「こころばリーフレット」	
	精神保健福祉に関するパンフレットの発行	
	思春期精神保健リーフレットの発行	
	ホームページ運営	
	精神保健福祉ガイドブック「ハートウォーミング」	
調 査 研 究	特定の課題に関する調査	
精 神 保 健 福 祉 相 談	精神保健福祉相談(2/週)	
	思春期の精神保健相談(3/月)	
	薬物リハビリテーション相談(3/月)	
	こころの健康電話相談	
	自死遺族相談(1/月)	
	うつ病家族教室	
		アルコール家族教室
組 織 育 成	愛知県精神保健福祉協会	
	愛知デイ・ケア実施施設交流会	
	精神保健福祉市民活動セミナー	
	セミナーフォローアップ事業	
	薬物問題関係機関連絡会議	
	アディクション・セッション	
ひきこもり 地 域 支 援 セ ン タ ー	ひきこもり支援コーディネーター嘱託員2名配置 開設・運営	運営
	ひきこもり支援セミナー	
	ひきこもり支援ガイドマップ	
	ひきこもりを考える家族の集い	
	ひきこもり相談	
	ひきこもり支援関係団体連絡会議	
リワーク支援 プログラム	開始・運営	運営
	うつ病就労支援研修	
地域の実情に 応じた事業	交流事業(卓球大会)	こころの健康フェスタなごや
	交流事業(ハートウォーミングコンサート)	
	精神障害者家族交流大会	
精 神 医 療 審 査 会	事務の実施	
公 費 負 担 ・ 手 帳 の 判 定	判定の実施	

	平成26年度	平成27年度
体 制	13人体制	13人体制
企 画 立 案	関係会議参加	
技 術 援 助	講師派遣	
	事例検討	
人 材 育 成	精神保健福祉関係職員研修	
	思春期精神保健関係者研修	
	薬物問題関係者研修会	
	こころの健康電話相談員研修	
	精神保健福祉援助実習(学生実習)	
	臨床医師研修	
	地域移行・地域定着支援推進研修	
		アルコール問題関係者研修
		見守り支援員研修
普 及 啓 発	情報誌「こころばNAGOYA」	
	情報誌「こころばリーフレット」	
	精神保健福祉に関するパンフレットの発行	
	思春期精神保健リーフレットの発行	
	ホームページ運営	
調 査 研 究	特定の課題に関する調査	
精 神 保 健 福 祉 相 談	精神保健福祉相談(2/週)	
	思春期の精神保健相談(3/月)	
	薬物リハビリテーション相談(3/月)	
	こころの健康電話相談	
	自死遺族相談(1/月)	
	うつ病家族教室	
	アルコール家族教室	アルコール教室
組 織 育 成	愛知県精神保健福祉協会	
	愛知デイ・ケア実施施設交流会	
	精神保健福祉市民活動セミナー	
	セミナーフォローアップ事業	
	薬物問題関係機関連絡会議	
	アディクション・セッション	
ひきこもり 地 域 支 援 セ ン タ ー	運営	
	ひきこもり支援セミナー	
	ひきこもり支援ガイドマップ	
	家族向けパンフレット	
	センター周知用カード設置	
	ひきこもりを考える家族の集い	
	ひきこもり相談	
	ひきこもり支援関係団体連絡会議	
		ひきこもり講演会
リワーク支援 プログラム	運営	
	うつ病就労支援研修	
		認知行動療法普及研修
地域の実情に 応じた事業	こころの健康フェスタなごや	
精 神 医 療 審 査 会	事務の実施	
公費負担・ 手帳の判定	判定の実施	

	平成28年度	平成29年度
体 制	13人体制	13人体制
企 画 立 案	関係会議参加	
技 術 援 助	講師派遣	
	事例検討	
人 材 育 成	精神保健福祉関係職員研修	
	思春期精神保健関係者研修	
	薬物問題関係者研修会	
	こころの健康電話相談員研修	
	精神保健福祉援助実習(学生実習)	
	臨床医師研修	
	地域移行・地域定着支援推進研修	
	アルコール問題関係者研修	ピアサポーター養成研修
		災害時精神医療活動研修
普 及 啓 発	情報誌「こころばNAGOYA」	
	情報誌「こころばリーフレット」	
	精神保健福祉に関するパンフレットの発行	
	思春期精神保健リーフレットの発行	
	ホームページ運営	
調 査 研 究	特定の課題に関する調査	
精 神 保 健 福 祉 相 談	精神保健福祉相談(2/週)	
	思春期の精神保健相談(4/月)	
	薬物リハビリテーション相談(3/月)	
	こころの健康電話相談	
	自死遺族相談(1/月)	
	うつ病家族教室	
	アルコール教室	依存症家族のつどい
組 織 育 成	愛知県精神保健福祉協会	
	愛知デイ・ケア実施施設交流会	
	精神保健福祉市民活動セミナー	
	セミナーフォローアップ事業	
	薬物問題関係機関連絡会議	
	アディクション・セッション	依存症医療機関連絡会議
ひきこもり 地 域 支 援 セ ン タ ー	運営	
	ひきこもり支援セミナー	
	ひきこもり支援ガイドマップ	
	家族向けパンフレット	
	センター周知用カード設置	
	ひきこもりを考える家族のつどい	
	ひきこもり相談	
	ひきこもり支援関係団体連絡会議	
	ひきこもり講演会	
	ひきこもり家族教室	
	ひきこもり支援サポーター養成研修及び派遣	ひきこもり支援サポーターフォローアップ研修
リワーク支援 プログラム	運営	
	うつ病就労支援研修	
	認知行動療法普及研修	
地域の実情に 応じた事業	こころの健康フェスタなごや	
精 神 医 療 審 査 会	事務の実施	
公 費 負 担 ・ 手 帳 の 判 定	判定の実施	

	平成30年度	令和元年度
体 制	13人体制	13人体制
企 画 立 案	関係会議参加	
技 術 援 助	講師派遣	
	事例検討	
人 材 育 成	精神保健福祉関係職員研修	
	思春期精神保健関係者研修	
	こころの健康電話相談員研修	
	精神保健福祉援助実習(学生実習)	
	臨床医師研修	
	精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進研修	(一部中止) ※
	ピアサポーター養成研修	
	災害時精神医療活動研修	
普 及 啓 発	情報誌「こころばNAGOYA」	
	情報誌「こころばリーフレット」	
	精神保健福祉に関するパンフレットの発行	
	思春期精神保健リーフレットの発行	
	ホームページ運営	
調 査 研 究	特定の課題に関する調査	
精 神 保 健	精神保健福祉相談(2/週)	
福 祉 相 談	思春期の精神保健相談(4/月)	
	こころの健康電話相談	
	自死遺族相談(1/月)	
	うつ病家族教室	
組 織 育 成	愛知県精神保健福祉協会	
	愛知デイ・ケア実施施設交流会	
	精神保健福祉市民活動セミナー	
	セミナーフォローアップ事業	
依存症対策	依存症相談(5/月)	
	薬物問題関係機関連絡会議	
	アルコール問題関係者研修	
	薬物問題関係者研修会	(中止) ※
	ギャンブル問題関係者研修	
	依存症医療機関連絡会議	
	依存症講演会	(台風19号接近により中止)
	アディクション・セッション	
	依存症教室(アルコール・薬物教室)	
	依存症家族のつどい	
		NAT-G
		司法書士による債務等相談会
ひきこもり	運営	
地 域 支 援	ひきこもり支援セミナー	
セ ン タ ー	ひきこもり支援ガイドマップ	
	家族向けパンフレット	
	ひきこもりを考える家族のつどい	
	ひきこもり相談	
	ひきこもり支援関係団体連絡会議	
	ひきこもり講演会	
	ひきこもり家族教室	
	ひきこもり支援サポーター養成研修及び派遣	
	ひきこもり支援サポーターフォローアップ研修	
リワーク支援	運営	
プ ロ グ ラ ム	うつ病就労支援研修	(中止) ※
	認知行動療法普及研修	
地域の実情に 応じた事業	こころの健康フェスタなごや	(中止) ※
精 神 医 療	事務の実施	
審 査 会		
公 費 負 担 ・ 手 帳 の 判 定	判定の実施	

※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため

	令和2年度	令和3年度
体 制	機構改革 1係2主査13人体制	1係2主査13人体制
企 画 立 案	関係会議参加	
技 術 援 助	講師派遣	
	事例検討	
人 材 育 成	精神保健福祉関係職員研修	
	思春期精神保健関係者研修	
	こころの健康電話相談員研修	
	精神保健福祉援助実習(学生実習)	
	臨床医師研修	
	精神障害にも対応した	精神障害にも対応した
	地域包括ケアシステム構築推進研修(中止)※	地域包括ケアシステム構築推進研修
	ピアサポーター養成研修	
	災害時精神医療活動研修	
普 及 啓 発	情報誌「こころばNAGOYA」	
	情報誌「こころばリーフレット」	
	精神保健福祉に関するパンフレットの発行	
	思春期精神保健リーフレットの発行	
	ホームページ運営	
調 査 研 究	特定の課題に関する調査	
精 神 保 健	精神保健福祉相談	
福 祉 相 談	思春期の精神保健相談(4/月)	
	こころの健康電話相談	
組 織 育 成	愛知県精神保健福祉協会	
	愛知デイ・ケア実施施設交流会(一部中止)※	愛知デイ・ケア実施施設交流会
依存症対策	依存症相談(5/月)	
	薬物問題関係機関連絡会議	
	依存症基礎講座	
	ギャンブル問題関係者研修	
	アルコール問題ネットワーク会議	
	依存症講演会	
	アディクション・セッション(中止)※	アディクション・セッション
	依存症家族教室	
	依存症家族のつどい	
	NAT-G	
	司法書士による債務等相談会	
ひきこもり	運営	
地 域 支 援	ひきこもり支援セミナー	
セ ン タ ー	ひきこもり支援ガイドマップ	
	家族向けパンフレット	
	ひきこもりを考える家族のつどい(一部中止)※	ひきこもりを考える家族のつどい
	ひきこもり相談	
	ひきこもり支援関係団体連絡会議	
	ひきこもり講演会	
	ひきこもり家族教室	
	ひきこもり支援サポーター養成研修及び派遣	ひきこもり支援サポーター養成研修及び派遣
	(一部中止)※	
	ひきこもり支援サポーターフォローアップ研修	ひきこもり支援サポーターフォローアップ研修
	(中止)※	
うつ病	普及啓発	
就労支援	うつ病就労支援研修(中止)※	うつ病就労支援研修
	認知行動療法普及研修	
自殺対策	自死遺族相談(1/月)	
	こころの健康フェスタなごや	
精 神 医 療	事務の実施	
審 査 会		
公 費 負 担 ・	判定の実施	
手帳の判定		

※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため

	令和4年度	令和5年度
体 制	1係2主査13人体制	1係2主査14人体制
企 画 立 案	関係会議参加	
技 術 援 助	講師派遣	
	事例検討	
人 材 育 成	精神保健福祉関係職員研修	
	思春期精神保健関係者研修	
	こころの健康電話相談員研修	
	精神保健福祉援助実習(学生実習)	
	臨床医師研修	
		医薬看連携地域参加型学習
	精神障害にも対応した	
	地域包括ケアシステム構築推進研修	
	ピアサポーター養成研修	
	災害時精神医療活動研修	
普 及 啓 発	情報誌「こころばNAGOYA」	
	情報誌「こころばリーフレット」	
	精神保健福祉に関するパンフレットの発行	
	思春期精神保健リーフレットの発行	
	ホームページ運営	
調 査 研 究	特定の課題に関する調査	
精 神 保 健	精神保健福祉相談	
福 祉 相 談	思春期の精神保健相談(4/月)	
	こころの健康電話相談	
		ネット・ゲームとの付き合い方を考える家族のつどい
組 織 育 成	愛知県精神保健福祉協会	
	愛知デイ・ケア実施施設交流会	
依存症対策	依存症相談(5/月)	
	薬物問題関係機関連絡会議	
	依存症基礎講座	
	ギャンブル問題関係者研修	
	アルコール問題関係者連絡協議会(名称変更)	
	依存症講演会	
	アディクション・セッション	
	依存症家族教室	
	依存症家族のつどい	
	NAT-G	
	司法書士による債務等相談会	
ひきこもり	運営	
地 域 支 援	ひきこもり支援セミナー	
セ ン タ ー	ひきこもり支援ガイドマップ	
	家族向けパンフレット	
	ひきこもりを考える家族のつどい	
	ひきこもり相談	
	ひきこもり支援関係団体連絡会議	
	ひきこもり講演会	
	ひきこもり家族教室	
	ひきこもり支援サポーター養成研修及び派遣	
	ひきこもり支援サポーターフォローアップ研修	
うつ病	普及啓発	
就労支援	うつ病就労支援研修	
	認知行動療法普及研修	
自殺対策	自死遺族相談(1/月)	
	こころの健康フェスタなごや	
精 神 医 療	事務の実施	
審 査 会		
公費負担・	判定の実施	
手帳の判定		

1 名古屋市精神保健福祉審議会答申（平成8年12月）

「名古屋市の精神保健福祉センターについて－都市型の地域精神保健福祉施策の推進について－」

(1) 名古屋市の精神保健福祉センターの3つの基本的機能

企画調整機能	市域全体を見渡す広い視野を持ちつつ、県の精神保健福祉センターや関係諸領域との連携・協力に主体的に取り組む企画調整機能が必要
情報センター機能	市内外の精神保健福祉情報の収集・調査といった精神保健福祉に関する様々な情報の収集及び提供といった情報センター機能が必要
診療及び高次の相談機能	第一線の相談機関を支えていくために、高い技術力を持った相談機能が必要

(2) 名古屋市の精神保健福祉センターの基本的考え方

目的	精神保健福祉センターは、センターの業務を通じて、市民が、都市の特徴である個人を基調とした社会において、ライフサイクルのあらゆるステージに生じる精神保健福祉に関する問題の解決を相互に支援する能力を有する地域社会づくりを職域や学域を含めて促進していくことを目的とする。
保健所との関係	精神保健福祉センターは、名古屋市内で活動する機関（保健所を含む）、組織、団体、施設に対する技術援助等を主たる業務とし、直接対人サービスについては保健所に対応することを基本とする。 しかし、時間外や複雑困難事例においては、保健所機能を補完するという範囲で直接センターが対応する。 また、精神保健福祉センターは、必要に応じて地域や関係機関と連携を図りつつ、精神保健福祉に関する新たな課題に先駆的に取り組み、蓄積した技術や経験を保健所に敷衍する。 さらに、外国人の精神保健福祉や精神障害者の権利擁護の問題、あるいは災害時のメンタルヘルスケアやいじめなど、保健所では対応困難な課題に対しては精神保健福祉センターが中心となって対応する。
デイケアの実施	現在、名古屋市は精神保健指導センターでデイケアを実施しているが、厚生省保健医療局長通知「精神保健福祉センター運営要領」（「センターは、診察機能や、デイケア、社会復帰施設等のリハビリテーション機能を持つことが望ましい。」）にのっとり、精神保健指導センターを精神保健福祉センターのデイケア部門として位置付けて、業務を引き継ぐ。

2 精神保健福祉センター業務検討会報告（平成9年8月）

名古屋市の精神保健福祉センターが常に志向すべき3つの基本姿勢

ネットワークづくり	地域における精神保健福祉に関する活動は、地域住民の精神的健康の保持増進、精神障害の予防、適切な精神医療の推進から、社会復帰の促進、自立と社会経済活動への参加の促進のための援助に至るまで広範囲にわたっており、関係する機関、施設等多種多様である。そのため、効率的かつ効果的にサービスを供給するには、調整能力を持ったネットワークが必要となる。精神保健福祉センターは、要領に「地域精神保健福祉活動推進の中核となる機能を備えなければならない。」と規定されていることから、本市のセンターは、常に関係機関等との連携、共働を念頭に置いた事業展開を図るとともに、ネットワークづくりを主体的に担っていくべきである。
先駆的な事業の計画的な展開	本市の精神保健福祉センターは、ネットワークを通して、地域における精神保健福祉に関するニーズや課題を包括的に把握しうる位置にある。また、精神保健福祉センターは、「精神保健及び精神障害者福祉に関する総合的技術センター」と要領に規定されている。この2点から、本市センターはネットワークを通じて地域のニーズや課題を的確に把握し、それに対応するための短中期的な事業計画を策定し、先駆的なモデル事業を3年から5年程度の時限で実施する。そして、その事業の成果は関係諸機関に積極的に普及、還元していくものとする。このようにして、センター自身は常に先駆的な事業に取り組んでいく。
市民に開かれた精神保健福祉センター	精神保健福祉センターは、精神保健福祉に関する関係諸機関を対象に業務を実施するとともに、市民を直接対象にする業務をも併せ持つ。このため、市民参加型の事業や、市民が利用しやすい情報提供の方策等を追求し、市民に開かれた、わかりやすいセンターにしていく必要がある。また、精神保健福祉センターの名称（愛称）についても、親しみやすくするよう配慮が必要である。

3 精神保健福祉センター業務検討会報告（平成24年1月）

(1) 3つの基本的な方向性

精神医療審査会及び手帳等判定などの専門業務の強化	増加する審査件数や判定件数に適切かつ迅速に対応できるよう、専門業務としての独立性・効率性を強化した体制を確保する。
人材育成及び地域づくりの促進	地域精神保健福祉に携わる人材を育成するとともに、関係機関等との連携、協同を念頭に置いた事業を展開し、ネットワークづくりを主体的に担い、地域社会づくりを促進する
地域に出かけ第一線機関を後方支援する体制の構築	複雑困難事例について、第一線の相談機関を支えていくために、後方支援機関として、より専門的かつ高い技術力をもって、地域へ出かけ支援する体制を構築する。

※上記と併せて、「3つの基本的機能」（審議会答申）の更なる推進を図る。

(2) 基本的な方向性を具体化するための方策

業務の見直し及び事務の効率化	・限られたマンパワーを有効活用するために、他施策や民間事業等の類似事業や、ニーズの薄まった事業を廃止・統合。 ・事務事業への嘱託職員を登用及び外部への事業委託。
精神科デイケアの発展的移行・先進事業の試行	・民間事業と類似する「精神科デイケア」については、「集団精神療法」、「集団認知行動療法」等により先駆的な診療業務への移行を検討。
組織体制の再編	・本庁所管課との業務分担を機能面・効率性の観点から再検証し、センターの組織を再編。本庁組織体制も併せて検討。 ・新たなニーズへの対応として、センター内にこころの健康対応を重視した「ひきこもり地域支援センター」の設置を検討。
センター業務の重責に見合った人材の配置	・地域精神保健福祉の中核的技術機関として、専門性を発揮するとともに、第一線の相談機関を後方支援する組織として、その職務の重責に見合った人材を配置するとともに、OB職員に限らず経験豊かな人材（嘱託員など）を登用。

4 精神保健福祉業務実施体制検討会報告（平成31年3月）

(1) 検討の趣旨

平成 30 年度より第 5 期障害福祉計画に基づき、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組み」を実施する中、平成 30 年度より 1 保健所 16 保健所支所体制に移行し、さらには平成 32 年度の障害福祉窓口の一元化の方向性が示されている状況を踏まえ、保健センターにおける本市の精神保健福祉に関する業務のあり方及び実施体制について、改めて整理検討を行った。

(2) 地域精神保健活動の基本的な方向性

方向性	具体的な取り組み
地域住民の近くで第一線の相談機関としての相談業務	・多職種協同による、未受診者・治療中断者等、必要な支援が届いていないケースに対する保健型アウトリーチを中心とした支援 ・精神科救急事案へのファーストコンタクトとしての支援及び継続的なフォローアップ等
地域の社会資源とネットワークの構築	・精神保健福祉関係者及び地域住民との「顔の見える」関係づくり ・保健・医療・福祉関係者とのネットワークの構築等

人材育成・事業者育成	・精神障害者支援の質を確保するための、保健医療福祉関係者の育成等
普及啓発	・メンタルヘルス全般の早期発見と介入ができるよう、こころの健康や精神障害に関する啓発 ・地域住民に対する精神障害者への理解促進のための普及啓発等

(3) 方向性を具現化するための必要な仕組みと方策

仕組みと方策	具体的な取り組み
相談員と保健師が協同する仕組み	・精神保健やケースに関する協議の場の設置 ・こころの健康相談日や家族教室等の保健センター事業の協同実施等
精神保健に関するライン体制の強化	・保健センター内における多職種チームによる協同体制の促進 ・他部署や他機関など対外的な調整 ・精神保健に携わる職員のキャリアラダーの形成等
保健センターをバックアップする体制（精神保健福祉センターの機能強化）	・地域へ出かけて行き、保健センターへのライブスーパービジョン機能 ・精神保健に関する研修等の人材育成に関するノウハウを提供する機能等

施設

1 場所

名古屋市中村区名楽町4丁目7番地の18
名楽福祉会館等複合施設5階

2 建物・面積

(1) 構造

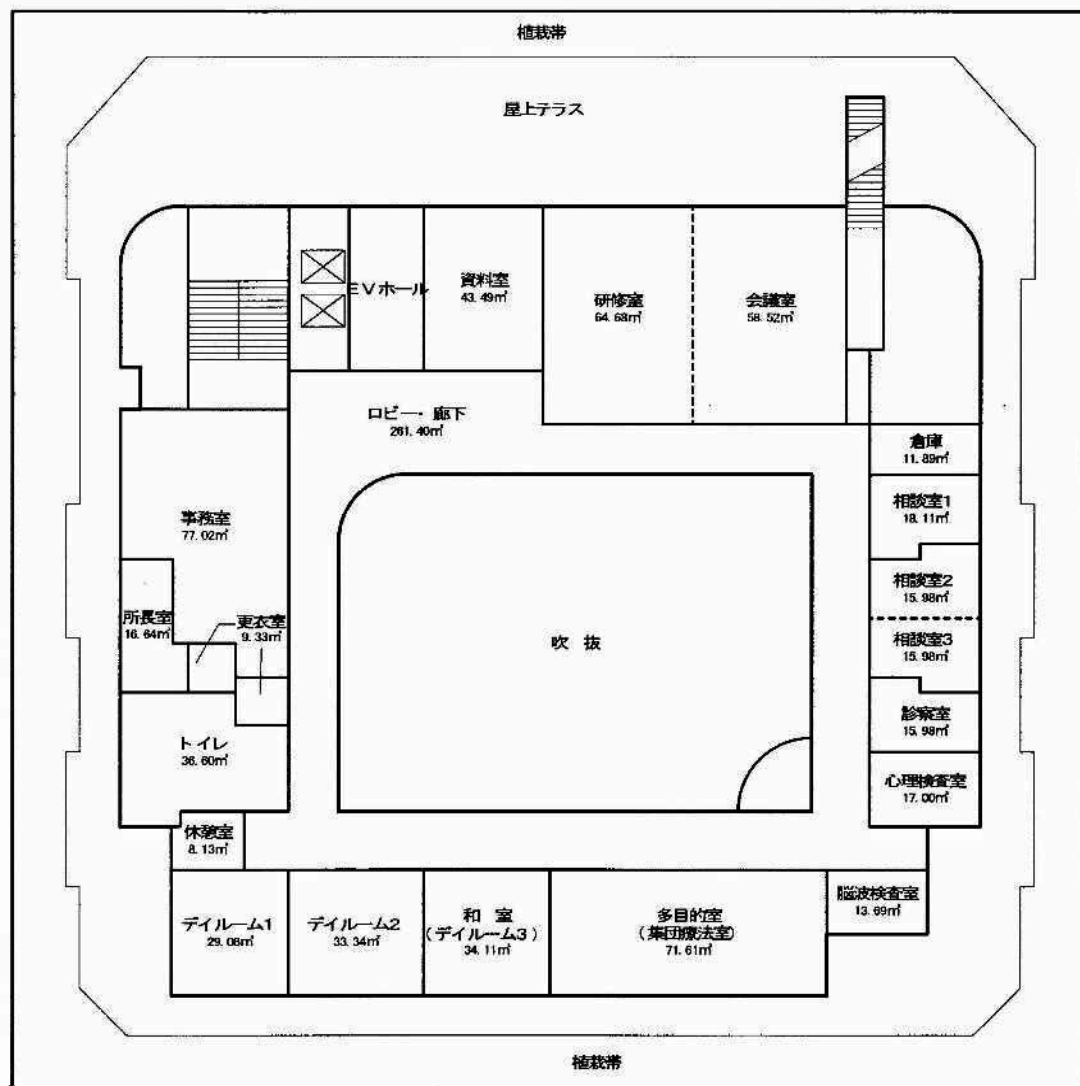
鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）地下1階・地上5階建

(2) 面積

区分	面積	備考
名楽福祉会館等複合施設 敷地面積	5,539.06㎡	
建築面積	2,761.43㎡	
延床全体面積	10,026.52㎡	
5階面積	1,040.35㎡	
精神保健福祉センター面積	951.20㎡	
専用面積	852.58㎡	他施設との共用按分面積を除く
部屋面積	591.18㎡	ロビー、廊下を除く
所長室	16.64㎡	
事務室	77.02㎡	
更衣室	9.33㎡	
診察室	15.98㎡	
相談室1	18.11㎡	
相談室2	15.98㎡	
相談室3	15.98㎡	
心理検査室	17.00㎡	
脳波検査室	13.69㎡	
資料室	43.49㎡	
研修室	64.68㎡	
会議室	58.52㎡	
デイルーム1	29.08㎡	
デイルーム2	33.34㎡	
和室（デイルーム3）	34.11㎡	
多目的室（集団療法室）	71.61㎡	
休憩室	8.13㎡	
便所	36.60㎡	
倉庫	11.89㎡	
ロビー・廊下	261.40㎡	
機械室、EV、階段等	98.62㎡	

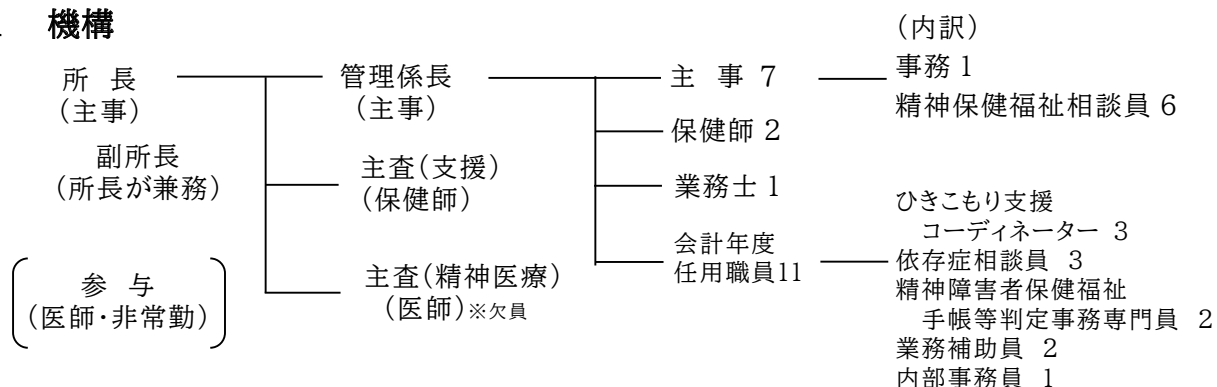
3 平面図

精神保健福祉センター平面図



組織（令和5年4月1日現在）

1 機構



2 職員構成

雇用形態		職 種		人数	備 考
職 員	事務職員	主事（事務）		3名	所長、係長含む
		主事（精神保健福祉相談員）		6名	
	技術職員	医師		1名	主査（欠員）
		保健師		3名	主査（支援）含む
		業務士		1名	
	小 計			14名	
会計年度 任用職員	ひきこもり支援コーディネーター			3名	ひきこもり地域支援センター担当
	依存症相談員			3名	依存症担当
	精神障害者保健福祉 手帳等判定事務専門員			2名	自立支援・手帳担当
	業務補助員			2名	
	内部事務員			1名	
	小 計			11名	
合 計				25名	

3 附属機関委員

職 種		人数	備 考
精神医療審査会	医療委員	16名	当センターが事務局を担当している本市の附属機関
	法律家委員	8名	
	有識者委員	8名	
合 計		32名	

4 各種相談員・委員等

職 種		人数
特定相談員	医師	4名
	臨床心理士	2名
	精神保健福祉士	2名
	司法書士	1団体
	ピア相談員	3団体
こころの健康電話相談員		13名
精神障害者保健福祉手帳等判定委員		10名
小計		4団体、31名

予算・決算

令和5年度 精神保健福祉センター 予算・決算

1 精神保健福祉センターの運営

節	当初予算額	予算現額	決算額
報酬	8,451,000	8,518,000	8,469,994
共済費（会計年度職員等）	1,297,000	1,303,000	1,084,180
報償費	4,614,000	4,613,900	4,206,000
旅費	939,000	938,000	568,536
需用費	45,302,000	42,223,000	42,215,984
役務費	1,215,000	1,213,550	952,033
委託料	11,791,000	9,863,000	9,862,150
使用料及び賃借料	1,954,000	1,699,000	1,698,439
工事請負費	213,000	4,673,200	4,673,138
備品購入費	1,249,000	552,350	552,326
負担金補助及び交付金	95,000	95,000	82,000
精神保健福祉センターの運営 計	77,120,000	75,692,000	74,364,780

2 ひきこもり地域支援センター

節	当初予算額	予算現額	決算額
報酬	9,030,000	9,007,000	8,948,661
共済費（会計年度職員等）	1,593,000	1,600,000	1,331,511
報償費	680,000	679,100	649,150
旅費	775,000	773,000	504,399
需用費	619,000	2,672,000	2,670,830
役務費	37,000	37,000	37,000
委託料	1,538,000	1,538,000	1,210,228
工事請負費	0	2,456,000	2,455,750
備品購入費	0	1,372,900	1,372,805
負担金補助及び交付金	5,000	6,000	6,000
ひきこもり地域支援センター 計	14,277,000	20,141,000	19,186,334

3 依存症対策事業

節	当初予算額	予算現額	決算額
報 酬	9,030,000	9,007,000	8,948,661
共済費（会計年度職員等）	1,593,000	1,600,000	1,331,511
報償費	1,485,000	1,485,000	1,061,700
旅 費	817,000	815,000	347,739
需用費	327,000	327,000	217,214
役務費	162,000	162,000	52,540
委託料	2,114,000	2,114,000	1,516,539
負担金補助及び交付金	18,000	18,000	0
依存症対策事業 計	15,546,000	14,528,000	13,475,904

（※ 精神保健福祉センター執行分）

4 その他の事業費

事業名	当初予算額	予算現額	決算額
医療審査会費	6,235,000	6,235,000	5,517,009
手帳等事務費	5,993,000	5,993,000	5,003,050
自殺対策事業	5,089,000	6,034,000	5,708,862
精神障害者ピアサポート 活用事業	260,000	260,000	79,980
支援技術普及研修 （認知行動療法）	512,000	512,000	58,100
公衆衛生総務費 （医師研究費）	210,000	0	0

（※ 精神保健福祉センター執行分）

第2章

企画立案

技術援助

人材育成

普及啓発

調査研究

精神保健福祉相談

組織育成

自殺対策

うつ病の方を対象とした就労支援関連事業

精神医療審査会の事務

精神障害者保健福祉手帳及び自立支援医療（精神通院医療）の判定

依存症対策

ひきこもり地域支援センター

企画立案

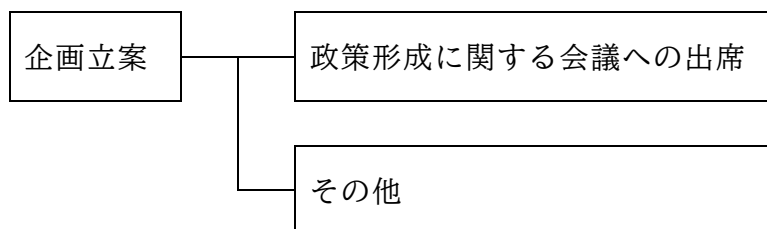
1 趣旨

地域精神保健福祉を推進するため、本市の精神保健福祉主管部局及び関係諸機関に対し、専門的立場から、社会復帰の推進方策や、地域における精神保健福祉施策の計画的推進に関する事項等を含め、精神保健福祉に関する提案、意見具申等をする。

2 概況

令和5年度は、名古屋市障害者施策推進協議会をはじめとする各種会議へ職員を派遣し、本市の障害者福祉施策、精神保健福祉施策の検討に参画した。

3 体系



政策形成に関する会議への出席

※ 別途、P28-29「技術援助（会議等への出席）」に記載

技術援助

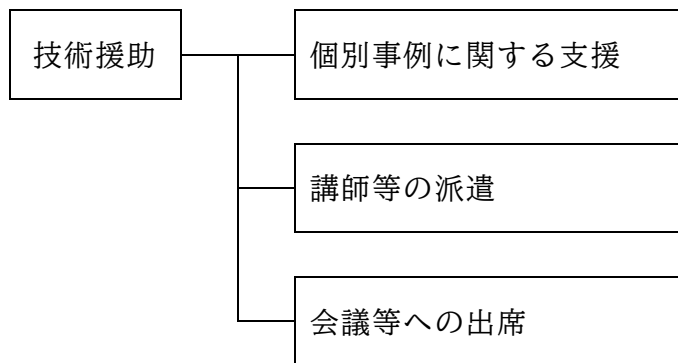
1 趣旨

地域精神保健福祉活動を推進するため、保健センター及び関係諸機関に対し、専門的立場から、積極的な技術指導及び技術援助を行う。

2 概況

令和5年度は、個別事例に関する支援や講師等の派遣、会議等への出席を行った。

3 体系



個別事例に関する支援

関係機関等に対して、個別事例や事業企画への助言等を行った。

区 分	高 齢 期	社 会 復 帰	ア ル コ ール	薬 物	ギ ャ ン ブル	ゲ ー ム	思 春 期	こ こ ろ の 健 康 づ く り	ひ き こ も り	そ の 他	計
保 健 セ ン タ ー	0	37	5	2	1	1	6	22	1	3	78
区 役 所	0	56	0	2	1	0	4	1	5	13	82
福 祉 事 務 所	0	7	1	0	0	0	0	0	0	1	9
医 療 施 設	1	21	5	10	1	0	0	1	3	2	44
障 害 者 支 援 施 設	0	38	1	1	0	0	0	4	2	3	49
社 会 福 祉 施 設	0	14	3	0	0	0	2	8	3	5	35
そ の 他	0	14	0	7	11	0	3	2	7	5	49
計	1	187	15	22	14	1	15	38	21	32	346

講師等の派遣

関係機関の主催する事業等へ講師・助言者として職員を派遣した。

派遣事業・演題等	主催者
引受人会「名古屋市精神保健センターでの家族支援」	名古屋保護観察所
事例検討会「精神障害のある方への対応」助言・講評	中川区自立支援協議会
一般改善指導（ギャンブル等依存症回復指導）外部講師指導	名古屋刑務所
酒害相談研修	愛知連合断酒会
ケアマネージャー勉強会	名古屋市社会福祉協議会
千種区ひきこもり支援交流会	千種区自立支援協議会
ギャンブル等依存症回復指導（選択プログラム）	名古屋刑務所
スクールソーシャルワーカー学習会 「名古屋市ひきこもり地域支援センターについて」	教育委員会子ども応援室
千種区法人合同事例検討会	千種区居宅介護支援事業 所連絡会
介護支援専門員現任研修「精神障害者と家族ケア」	名古屋市社会福祉協議会
生活保護法施行事務関係新任職員研修会 「こころを病む人たちに対応するには」	生活福祉部 保護課
高齢の両親が対応できなくなった後のライフスタイル変更に 伴う支援方法	中区自立支援協議会
「ケース支援終了後の支援者検討会」助言	中川区自立支援協議会
「保護者勉強会」	なごや若者サポートステ ーション
名古屋市ひきこもり地域支援センターにおける支援状況説明	市内ひきこもり支援団体 視察
名古屋市ひきこもり地域支援センターにおける支援状況	岡崎市ひきこもり支援団 体視察
名古屋市ひきこもり地域支援センターにおける支援状況	市内ひきこもり支援団体 視察
名古屋市精神保健福祉センター「依存症相談窓口」における ギャンブル依存症の支援状況	名古屋刑務所
NP0愛知家族会フォーラム	NP0法人愛知家族会
かかりつけ医等心の対応力向上研修 「名古屋市における思 春期相談窓口の取組と相談状況の概要」	名古屋市医師会

名古屋市立大学病院医療系学部地域参加型学習2023	名古屋市立大学医療系学部研究科連携教育委員会
講義 「精神保健福祉」	名古屋市立大学医学部
精神保健医療福祉制度論（博士前期課程）①、②	名古屋市立大学大学院看護学研究科
講義 「精神保健と精神障害者福祉」	名古屋市立大学医学部附属病院

会議等への出席

本市域の精神保健福祉活動の活性化のため、関係機関が主催する精神保健福祉に関する会議等へ参加、事務従事を行った。

会議名	分野	回数
愛知県精神保健福祉協会	その他	4
名古屋市精神保健福祉審議会	社会復帰	1
名古屋市精神障害者支援地域調整会議	社会復帰	1
愛知発達障害者等就労支援推進会議、連絡協議会	社会復帰	2
名古屋市障害者施策推進協議会、専門部会	社会復帰	2
障害者雇用支援連絡協議会	社会復帰	1
名古屋市発達障害者体制整備検討委員会	社会復帰	2
愛知県高次脳機能障害支援普及事業相談支援体制連絡調整委員会	社会復帰	2
愛知県医療観察制度運営連絡協議会及び幹事会、部会等	社会復帰	3
医療観察法ケア会議・個別ケース会議	社会復帰	47
愛知県名古屋市精神保健福祉センター意見交換会（事業・審査会）	その他	2
名古屋市保健所嘱託医会	心の健康	1
名古屋市自殺対策連絡協議会及び市内連絡会議	自殺関連	4
名古屋市自殺対策関係相談機関等ネットワーク会議	自殺関連	1
名古屋市自殺未遂者支援マニュアル作成懇談会	自殺関連	2
全国精神保健福祉センター研究協議会	その他	1
全国精神保健福祉センター長会・理事会・大都市部会	その他	2
中部・近畿ブロック精神保健福祉センター長会	その他	1
全国精神医療審査会長・精神保健福祉センター所長会議	その他	2
全国精神医療審査会連絡協議会	その他	1
名古屋家族会連合総会、勉強会	社会復帰	2
こころの健康フェスタ打合せ	自殺関連	8
自死遺族カウンセリング名大との懇話会	自殺関連	1
自死遺族支援コンシェルジュ聴取会	自殺関連	1
スマイルデーなごや事前打ち合わせ	自殺関連	2

あした天気にな〜れ・実行委員会	心の健康	2
精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業関連会議	社会復帰	37
地域移行・地域定着支援推進関連研修に関する会議	社会復帰	8
ひきこもり支援団体連絡会議	ひきこもり	1
全国VoiceBridgeProject全体会議	薬物	1
東海北陸厚生局意見交換会	薬物	2
東海北陸地区薬物中毒対策連絡会議	薬物	1
東海北陸厚生局麻薬取締部連絡会議	薬物	1
全国依存症相談員会議	依存症	1
アルコール問題関係機関連絡協議会	アルコール	3
八事アルコールネットワーク会議	アルコール	1
ギャンブル等依存症対策関係機関連絡会議	ギャンブル	1
薬物問題関係機関連絡会議、事前会議	薬物	3
薬物依存症回復支援ネットワーク会議	薬物	4
国際センターとの協働に向けた打合	心の健康	1
名古屋競輪組合との打合	ギャンブル	1
千種区ひきこもり支援交流会	ひきこもり	1
中区障害者自立支援協議会全体会	社会復帰	1

人材育成

1 趣旨

保健センター、福祉事務所、障害者総合支援法に規定する障害福祉サービスを行う事業所等その他の関係諸機関等で精神保健福祉業務に従事する職員等に、専門的研修等の人材育成を行い、技術的水準の向上を図る。

2 概況

令和5年度は、保健センター職員研修、関係機関職員等研修、実習生等の受入及び当センター職員への研修を行った。

3 体系



精神保健福祉関係職員研修

1 趣旨

精神保健福祉に関係する職員に対してさまざまな研修を実施し、業務上必要な基本的知識の理解及び援助技術の習得を図るもの。

2 実績

(1) 講義 (会場：名古屋市精神保健福祉センター※オンライン開催とあるもの以外)

実施日	内 容	参 加
4月6日	・精神科医療の概要と緊急対応を要する精神症状 ・精神保健福祉センター業務について	33名
4月12日	・精神科救急（措置入院等）について 講師：精神保健福祉センター職員、健康部健康増進課職員 （※オンライン開催）	32名
5月10日	・保健センターの精神保健福祉業務について ・名古屋市における精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築に向けた取組について ・精神保健福祉センター業務、ひきこもり支援、依存症相談窓口について ・医療観察法について 講師：昭和保健センター精神保健福祉相談員 健康部健康増進課職員、精神保健福祉センター職員 保護観察所職員	14名
6月19日	・精神保健福祉センター業務について ・依存症相談窓口について ・ひきこもり地域支援センター、ひきこもり支援について 講師：精神保健福祉センター職員 （※オンライン開催）	60名
8月18日	・事例検討の進め方、ファシリテーションの技術について 講師：三方原病院 精神保健福祉士 平野 慎一郎 氏	14名
9月6日	・面接技法研修①「初回面接の進め方」 講師：中京大学心理学部教授 神谷 栄治 氏	16名
9月21日	・面接技法研修②「パーソナリティ障害等の理解と対応」 講師：中京大学心理学部教授 神谷 栄治 氏	17名
11月29日	・精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて 講師：国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 地域精神保健・法制度研究部 部長 藤井 千代 氏	34名
1月9日	・グループワーク「精神保健福祉相談員と保健師での連携と地域課題の共有」	35名

2月2日	・精神疾患とその対応 ・災害時のメンタルヘルス～被災者の心に寄り添うとは～ 講師： 精神保健福祉センター職員 (※オンライン開催)	30名
------	--	-----

(2) 精神科医療機関実習

ア 趣旨

精神科医療機関における精神保健福祉業務についての理解を深め、あわせて精神科医療機関との連携を図るもの。

イ 対象者

保健センター新任精神保健福祉相談員・精神保健福祉センター職員

ウ 日時

次の表のとおり、精神科クリニックにおいて、1名につき原則各1日間ずつの実習を実施した。

日程	実習先	人数
7月14日(金)	西山クリニック	1
7月21日(金)		1
8月3日(木)		1
8月29日(火)		1
9月1日(金)		1

(3) 精神保健福祉事例検討会

ア 趣旨

精神保健福祉相談業務に従事するにあたり、必要な技術の習得・向上を図るため、実際の事例に基づき、その対応方法や方針、各機関・職種の役割分担等具体的な相談業務について検討するもの。併せて、ケース会議等でのファシリテーションスキルを獲得する機会とする。

イ 参加者

保健センター精神保健福祉相談員・保健師等精神保健福祉関係職員、健康部健康増進課職員、精神保健福祉センター職員 他

ウ 日時及び内容

実施日	担当	内 容	参 加
5月9日	幹事区	「措置入院者の退院後支援に向けて、 支援者としてできることを考えたい」 西保健センター 精神保健福祉相談員	19名
7月11日	北 ブロック	「成年後見制度の市長申立てについて本人支援のため にできることは？」 西保健センター 精神保健福祉相談員 「精神保健福祉法第34条の移送制度の利用を相談さ れた場合の対応について」 守山保健センター精神保健福祉相談員	19名
9月12日	西 ブロック	「父母が服薬治療を拒否するケース」 中村保健センター 精神保健福祉相談員 「家族への対応にも苦慮するケース」 熱田保健センター精神保健福祉相談員	16名
11月14日	南 ブロック	「退院直後に自死した措置入院者退院後支援事例 について」 緑保健センター 精神保健福祉相談員 「精神科病院へ強制入院したあと亡くなったケー ス」 天白保健センター精神保健福祉相談員	21名
1月9日	名古屋市 健康増進課	グループワーク「精神保健福祉相談員と保健師での 連携と地域課題の共有」(精神保健に関する地域の課題 共有のための研修に巻き替え開催)	35名
3月12日	東 ブロック	「ひきこもりケースを医療機関につなぐためには」 昭和保健センター精神保健福祉相談員 名古屋市子ども・若者総合相談センター	16名

思春期精神保健関係職員研修

1 趣旨

思春期の精神的な発達及び思春期に起こりがちな心の健康に関する諸問題を主な内容とし、保健センター職員を始めとする関係機関職員を対象に、専門職として資質の向上を図ることを目的とするもの。

2 実績

対 象	・各区保健センター ・本市関係機関（健康福祉局、子ども青少年局） ・教育機関（名古屋市内高等学校、中学校、特別支援学校） ・各区民生子ども課、支所区民福祉課 ・その他関係機関
-----	---

実 施 日	1 1 月 2 8 日
実 施 方 法	オンライン開催
内 容	「思春期の子どもたちのケアで大切なこと」 講師：塩釜口こころクリニック 院長 河合 佐和 氏
参 加	1 2 5 名

こころの健康電話相談員研修

※ 別途、P48-49「精神保健福祉相談（こころの健康電話相談）」に記載

認知行動療法普及研修

1 趣旨

当センターでは、認知行動療法の普及と、うつ病患者等への治療の質の向上を図るため、市域の医療従事者等を対象とした研修を実施している。

2 実績

対 象	名古屋市内の医療機関等で精神科医療及び相談等に従事する医師、臨床心理士（資格見込可。大学院生以上）、精神保健福祉士、作業療法士、保健師、看護師、市内の小中高等学校・大学の教員やスクールカウンセラー等
実 施 日	2 月 2 7 日
実 施 方 法	オンライン開催
内 容	「強迫性障害へのアプローチ～信頼関係から始まる治療と支援～」 藤が丘こころと体のクリニック 院長 橋本 伸彦 氏
参 加	9 7 名 （参加機関数 4 3）

依存症関連関係者研修

※ 別途、P76-77「依存症対策（依存症支援者研修）」に記載

ひきこもり支援関係者研修

※ 別途、P85「ひきこもり地域支援センター（ひきこもり支援セミナー）」に記載

精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進研修

1 趣旨

精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築に向けて、地域の精神保健医療福祉関係者の連携を推進し、精神障害者が地域でその人らしく生活を送れるよう、支援体制の構築を図る。

2 実績

(1) 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進研修

対 象	名古屋市内の精神科医療機関職員および県内の精神科デイケア実施施設職員
実 施 日	2月15日
実 施 方 法	オンライン開催
内 容	ア「名古屋市における精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築に向けた取り組みについて」 説明：名古屋市精神保健福祉センター職員 イ「ピアサポーターと支援者からのメッセージ」 講師：名古屋市精神障害者ピアサポーター 就労継続支援B型 作業所のどか職員 守山区障害者基幹相談支援センター職員
参 加	24名（機関数14）

(2) 精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築推進事業において行われる精神障害者の地域移行関係職員に対する研修

対 象	指定特定・一般相談支援事業所、地域生活支援拠点事業所
実 施 日	7月7日
会 場	名古屋市精神保健福祉センター
内 容	ア「名古屋市における精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築に向けた取り組みについて」 説明：健康福祉局健康部健康増進課 職員 イ「精神障害者の障害特性と支援技法についてⅠ」 障害特性の理解及び具体的な支援方法（統合失調症・気分障害）」 講師：医療法人桜桂会 犬山病院 医療社会事業室 室長・精神保健福祉士 緒方 未輝子 氏 ウ「精神障害者の障害特性と支援技法についてⅡ」 障害特性の理解及び具体的な支援方法（老年期・依存症・発達障害）」 講師：特定非営利活動法人さざさみ 生活支援センターさざなみ 精神保健福祉士 中住 正紀 氏 エ「当事者の想いを学ぶ～ピアサポーターのメッセージ～」 発表者：名古屋市内で活躍されている精神障害者ピアサポーター 2名 オ「社会資源と連携、家族支援の必要性について」 講師：社会福祉法人 半田市社会福祉協議会 半田市障がい者相談支援センター 副センター長 徳山 勝 氏
参 加	60名

精神障害者ピアサポート活用事業関連研修

1 趣旨

精神障害のある当事者が自らの経験を活かし、精神科病院に入院中の方への退院意欲の動機づけ支援や地域の家族会等において地域移行・地域定着支援の普及啓発活動を行う精神障害者ピアサポーター（以下「ピアサポーター」という。）及びピ

アサポーター支援者の養成を目的とするもの。

なお、この研修でいうピアサポーターは、精神障害者ピアサポート活用事業実施要綱に基づき行う、精神障害者ピアサポート活用事業における精神障害者ピアサポーターとする。

2 実績

(1)精神障害者ピアサポーター養成研修

対 象	ア 当事者 (ア) 市内在住または市内の障害福祉サービス事業所を利用しているピアサポート活動希望当事者 (イ) 医療機関デイケアを利用しているピアサポート活動希望当事者 イ 支援者(本市ピアサポート活用事業において当事者を支援するもの) (ア) 各区障害者基幹相談支援センター関係職員 (イ) 障害福祉サービス事業所関係職員 (ウ) 医療機関デイケアの関係職員
参加延べ人数	57名
<講義編>	
実 施 日	9月15日
実 施 方 法	オンライン開催
内 容	ア 「みんなが元気で暮らせるために ～ピアサポーターと支援者に求められる役割について～」 講師：日本福祉大学 福祉経営学部 医療福祉マネジメント学科 教授・社会福祉学博士 青木 聖久 氏 イ 「本市活動事業に従事した想いと支援者と歩んだ経験について」 「当事者との協働について」 講師：名古屋市ピアサポーター活動当事者 守山区障害者基幹相談支援センター職員 ウ 受講者によるグループワーク 「現状と今後取り組みたい活動内容について」
参 加	31名 (内訳：当事者22名、支援者9名)
<実践編>	
実 施 日	10月6日
会 場	名古屋市精神保健福祉センター
内 容	ア 「ピアサポーターの活動および活動を継続する上で必要な考え方について」 講師：名古屋市精神保健福祉センター職員 イ ピアサポーターとして活躍中の先輩の体験談 講師：名古屋市ピアサポーター活動当事者 2名 ウ 体験発表及びグループ交流会 「実際に体験談を発表してみよう」
参 加	26名 (内訳：当事者17名、支援者9名)

(2) 精神障害者ピアサポーター フォローアップ研修

目 的	ピアサポーターとしての活動継続へのモチベーションや質の向上を目的とする
対 象	ア 令和4年度名古屋市精神障害者ピアサポーター養成研修受講者 イ 名古屋市精神障害者ピアサポート活用事業登録者 (当研修を過去に受講された活用事業登録者は除く) ウ 受講希望当事者を支援されている方
実 施 日	3月14日
会 場	名古屋市精神保健福祉センター
内 容	ア 講義：「ピアサポーターとして活動する意味～当事者として、 ピアサポーターとして、ピアサポーター支援者として～」 講師：作業所型地域活動支援事業くさのねっと 施設長 亀沖 昌睦 氏 イ 受講者によるグループワーク 「仲間との交流を通して体験談を伝える意味合いを考えてみましょう！」
参 加	14名 (内訳：当事者7名、支援者7名)

災害時精神医療活動研修

1 趣旨

名古屋市域内外における大規模自然災害及び大規模事故等の発生時において、精神医療機関の支援、被災者の心のケア活動等を行うことができるよう関係職員を対象に研修を行うもの。

令和5年度は、WHO版心理的応急処置（サイコロジカル・ファーストエイド：PFA）に関する基本的技能を習得し、保健センター職員が、今後の地域での防災関連の事業において心の健康の普及活動に取り組めるようPFAの集合研修を実施するとともに、精神保健福祉関係職員研修（P31参照）の一環として、より多くの対象者に災害時精神医療活動についてのオンライン研修も行った。

2 実績

対 象	保健センター職員（精神保健福祉相談員、保健師、医師等）
実 施 日	12月8日
会 場	名古屋市精神保健福祉センター
内 容	講義 「WHO版心理的応急処置（PFA）について」 講師：東京大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 精神看護学分野 准教授 宮本 有紀 氏 ワールド・ビジョン・ジャパン支援事業部開発事業第1課 国内 子ども支援チーム プログラム・コーディネーター 山下 愛子 氏
参 加	24名

1 趣旨

平成29年度より「医療観察法に基づく地域社会における処遇に関する愛知県運営要綱」の第1章の第2の2の(2)に基づき研修部会が設置された。研修部会は令和2年度に地域連携部会として再編成され、当センターも部会の一員として、処遇の質の向上に資する研修又は研究の機会について企画・検討を行うもの。

2 実績

対 象	瀬戸保健所管内にある、①精神科病院（非指定通院医療機関も含む）、②瀬戸保健所、③市長村主管課、④障害福祉サービス事業所（居住系、就労系、相談支援）、⑤尾張東部権利擁護支援センター
実 施 日	1月25日
実 施 方 法	オンライン開催
内 容	医療観察制度に関する説明
参 加	41機関

対 象	愛知県内の訪問看護ステーション
実 施 日	2月8日
実 施 方 法	オンライン開催
内 容	・東海北陸厚生局からの資料報告 「医療観察法診療報酬請求・算定方法について」 ・意見交換 「地域処遇における円滑な医療の実施について」
参 加	16機関

実習生等の受入

1 精神保健福祉援助実習

(1) 趣旨

精神保健福祉士法第7条第1号により、学校教育法に基づく大学において厚生労働大臣の指定する精神障害者の保健及び福祉に関する科目を修めて卒業した者その他その者に準ずるものとして厚生労働省令で定める者については、精神保健福祉士試験受験資格を有すると規定され、平成10年厚生労働省告示第8号により定められた指定科目の中に「精神保健福祉援助実習」が含まれている。

この精神保健福祉士国家試験受験資格付与に係る、学校教育法に定める大学のカリキュラム「精神保健福祉援助実習」として学生を受け入れるもの。

(2) 実績

対象大学名 (受入人数)	同朋大学（1名） 東京福祉大学（1名）
実 施 日	6月5日～6月20日
実 習 施 設	名古屋市精神保健福祉センター（12日間） 中村・港保健センター（1日間）

担 当 体 制	精神保健福祉相談員のうち精神保健福祉士 3 名で実習生を担当	
内 容	オリエンテーション	ア 精神保健福祉センター・保健センターの業務について イ 名古屋市の精神保健福祉施策について
	講 義	精神疾患、精神医療審査会、手帳等の判定、特定相談（思春期・自死遺族）、障害者総合支援法、ひきこもり関連、依存症対策事業、精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業等
	実 習	各相談、事業に参加
	教 材 (供与)	「名古屋市精神保健福祉センター所報」、「資料集」、「障害者福祉のしおり」、その他センター発行物等

2 公認心理師養成のための心理実習

(1) 趣旨

公認心理師法第7条により、学校教育法に基づく大学において主務大臣指定の心理学等の科目を修め、かつ大学院において主務大臣指定の心理学等の科目を修めてその課程を修了した者等については公認心理師の受験資格を有すると規定されている。ここに規定されている心理学等の科目の中には、学外施設で実習を行う「心理実習」が含まれている。

この公認心理師国家試験受験資格付与に係る大学のカリキュラム「心理実習（臨床心理学学外実習）」として、学生を受け入れるもの。

(2) 実績

実 施 日	対象大学名 (受入人数)	内 容
7 月 1 8 日	名古屋市立大学 (18名)	講義： 「精神保健活動・医療者の視線から」 「名古屋市における精神保健福祉業務について」
7 月 1 9 日	中京大学 (16名)	

3 看護学修士課程実習

大学院看護学修士課程における学生 2 名の実習を受入れた。

4 医師臨床研修

(1) 趣旨

医師法第 16 条の 2 第 1 項に規定する臨床研修の施行にあたっては、国から「臨床研修の到達目標」が示されており、臨床研修病院の指定の基準では、この到達目標を達成できる研修プログラムを有することが求められている。この到達目標の中では、経験目標の一つに特定の医療現場の経験が掲げられ、その中に精神保健・医療も盛り込まれている。精神保健福祉センターも、精神科病院等と並び必須項目として経験すべき精神保健・医療の現場とされている。

当センターも臨床指定研修病院の研修協力施設という位置づけで、研修の一部を担い、研修医を受け入れるもの。

(2) 実績

協力した臨床指定研修病院	回 数	参 加
名古屋市立大学病院	1 2 回	5 名

5 医薬看連携地域参加型学習

(1) 趣旨

名古屋市立大学では医学・薬学・看護学の医療系3学部の1年生を対象とし、地域の医療機関・施設・団体等の協力のもと、保健・医療・福祉に関する活動を行う実習を実施している。

当センターも協力施設として、実習生のグループを受け入れるもの。

(2) 実績

令和5年度は1グループ9名（医学部3名・薬学部2名・看護学部4名）を受け入れ、主に高校生を対象としたスマートフォン依存・ゲーム障害に関するイベント開催への助言・指導を実施した。

実 施 日	来所学生数	来所教員数	内 容
7月5日	3名	1名	センターの見学、イベントの打合せ
8月9日	3名	1名	イベントの打合せ
11月5日	9名	1名	イベントの実施

視察・見学

保健センター医師、子ども応援委員会、中学生、民生委員などの視察・見学を受入れた。

当センター職員の研修

当センター職員の資質向上のため次の研修に職員を派遣した。

研修名	派遣延人数
ギャンブル等依存症研修（治療指導者/相談対応指導者養成研修） オンライン	2日×1名
依存症治療指導者・依存症相談対応指導者・地域生活支援指導者養成研修 （薬物）オンライン	2日×1名
依存症研修 ゲーム依存相談対応指導者養成研修 オンライン	2日×1名
ひきこもり相談支援実践研修会【基礎編】オンライン	0.5日×4名
ひきこもり相談支援実践研修会【応用編】オンライン	0.5日×4名
重層的支援フォーラム	0.5日×4名
こころの健康づくり対策事業PTSD対策専門研修 オンライン	2日×1名

普及啓発

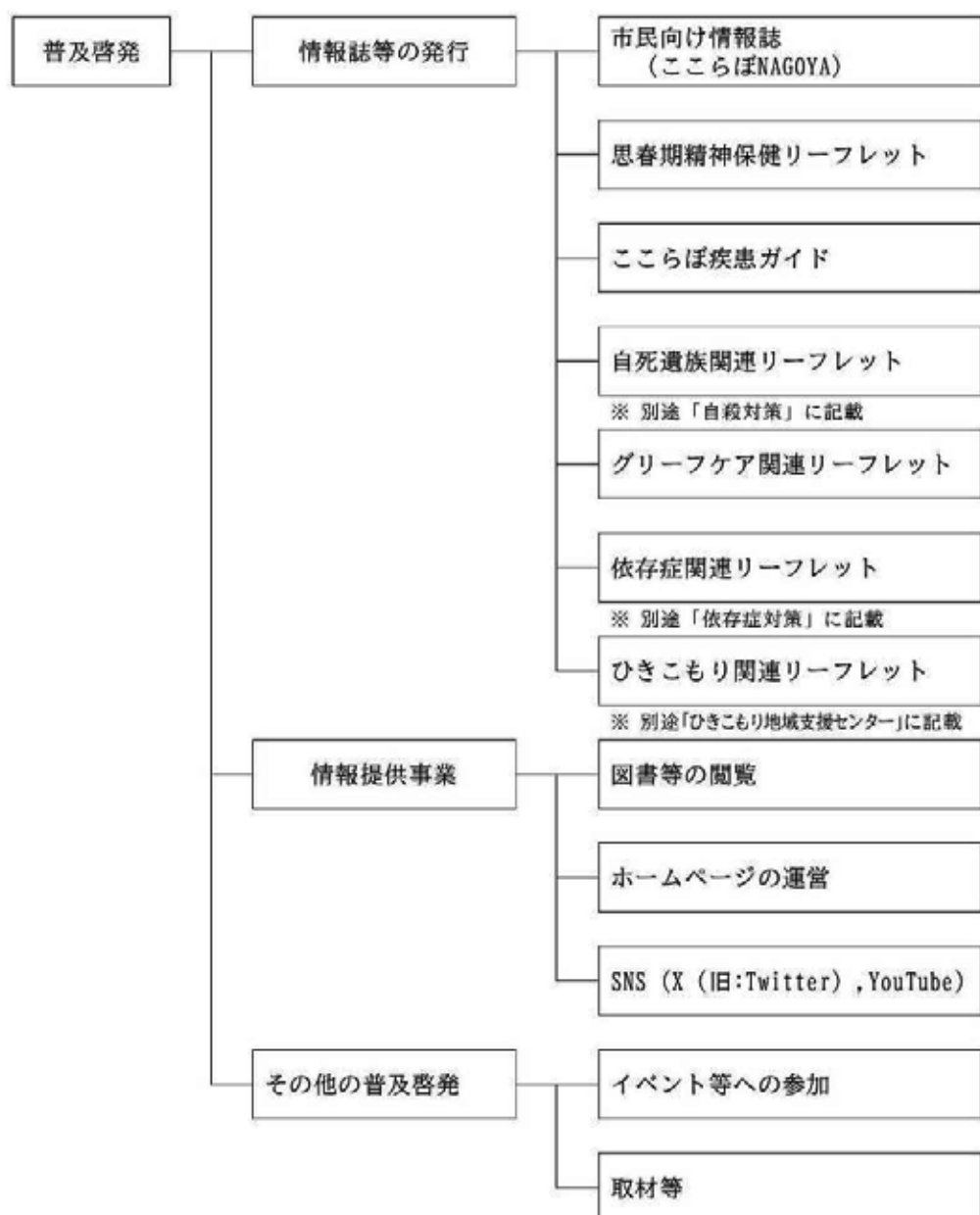
1 趣旨

市民に対し精神保健福祉の知識、精神障害についての正しい知識、精神障害者の権利擁護等について普及啓発を行うとともに、保健センター等が行う普及啓発活動に対して専門的立場から協力、指導及び援助を行う。

2 概況

令和5年度は市民向け情報誌、思春期精神保健リーフレット、精神疾患に関するガイドブック、ひきこもり・依存症・グリーフケア関連のリーフレット等を発行した。また、ホームページの運営、X（旧：Twitter）、YouTubeでの情報提供を実施した。

3 体系



1 趣旨

当センターの行う事業や精神保健福祉関係機関等の活動、法律・施策に関する情報、精神医学的な知識や技術に関する情報などを掲載した情報誌を発行し、広く市民に情報提供することで、精神保健福祉施策の一層の推進を図るもの。

毎年、年2回発行している。

2 実績

名 称	名古屋市精神保健福祉センター通信 こころばNAGOYA	
対 象	一般市民、関係機関	
号 数	33号	34号
発行部数	2,800部	2,700部
発行月	9月	3月
内 容	・新所長挨拶 ・令和5年度名古屋市依存症講演会/令和5年度アディクション・セッション 開催のご案内 ・名古屋市ひきこもり地域支援センター増設のお知らせ ・掲載作品募集のご案内 ・令和4年度こころの健康フェスタなごや 開催のご報告 ・リレーでつながろう！地域の支援機関（第23回）	・名古屋市ひきこもり地域支援センターのご紹介 ・令和5年度名古屋市依存症講演会/令和5年度アディクション・セッション 開催のご報告 ・令和5年度こころの健康フェスタなごや 開催のご報告 ・掲載作品募集のお知らせ ・リレーでつながろう！地域の支援機関（第24回）

思春期精神保健リーフレット

1 趣旨

思春期精神保健に関しては、背景となる精神疾患は多様である。当センターや関係機関における相談者の疾病理解の促進を図るとともに、思春期精神保健についての市民の理解をより深めていただくために、思春期精神保健に関するリーフレットを発行するもの。

2 実績

- (1) 令和3年度に作成したリーフレット「ネット・ゲームとの上手な付き合い方」を当センター相談事業や研修などでの配布、本市ウェブサイトへの掲載をし広く活用してもらえるようにした。
- (2) 思春期の相談先一覧に、思春期の特徴への理解や対応の参考になるものを記載したリーフレット「10代からのメンタルヘルス」を作成し、当センター相談事業での配布、関係機関等へも配布した。

こころば疾患ガイド

1 趣旨

市民に疾病理解の促進を図ること等を目的に、様々な精神疾患について疾患ガイドを発行するもの。

2 実績

令和5年度は、①「統合失調症」②「双極性障害」③「発達障害」④「高次脳機能障害」⑤「うつ病」を、本市ウェブサイトに掲載した。

自死遺族関連リーフレット

※ 別途、P58-59「自殺対策（自死遺族に対する支援）」に記載

グリーフケア関連リーフレット

1 趣旨

市民にグリーフケアに関する理解の促進を図ること等を目的に発行するもの。

2 実績

令和5年度に新規作成し、関係機関への配布、市ウェブサイトにも自助グループや支援団体の案内とともに掲載し広く周知した。

依存症関連リーフレット等

※ 別途、P77-78「依存症対策（依存症に関する普及啓発および情報発信）」に記載

ひきこもり関連リーフレット等

※ 別途、P86-87「ひきこもり地域支援センター
(ひきこもりに関する普及啓発および情報発信)」に記載

情報提供事業

1 図書・各種媒体の閲覧（貸出）

資料室に図書やビデオ・DVDを備え付け、市民への閲覧に供する他、関係職員に貸出を行った。

2 ホームページの運営及びSNSを利用した情報提供

当センターでは、これまで公式ホームページにおいて主催事業等の情報提供をおこなってきた。

令和2年度からはX（旧：Twitter）、YouTubeの公式アカウントを新たに開設し、こころの健康に関する様々な情報提供を行っている。

(1) ホームページ（平成13年2月開設）

ホームページアドレス (URL)	http://www.city.nagoya.jp/kurashi/category/22-5-3-0-0-0-0-0-0-0.html
---------------------	---

(2) X（旧：Twitter）（令和2年9月開設）

アカウントURL	https://twitter.com/cocolabo758
----------	---

(3) YouTube（令和3年2月開設）

アカウントURL	https://www.youtube.com/channel/UCk5EadWcd0fckjf6XHV31BA
----------	---

その他の普及啓発

1 イベントへの参加

「スマイル！こころの絆創膏デー2023」への参加

※ 別途、P56-57「自殺対策（自殺の予防）」に記載

2 取材等

報道機関（新聞社、テレビ局）からの取材・・・5件

（内容） 新型コロナウイルスこころのケア相談

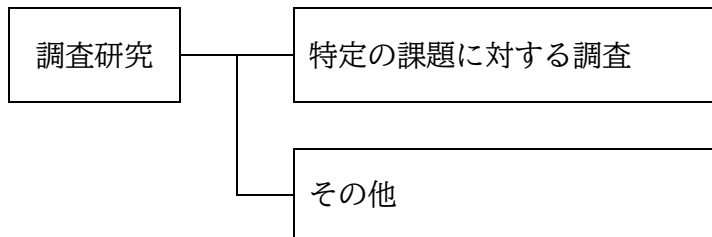
依存症、ひきこもり、ゲーム依存に関すること など

調査研究

1 趣旨

地域精神保健福祉活動の推進並びに精神障害者の社会復帰の促進及び自立と経済活動への参加の促進等についての調査研究をするとともに、必要な統計及び資料を収集整備し、保健センター等が行う精神保健福祉活動が効果的に展開できるよう資料を提供する。

2 体系



視察調査

件 名	派遣延人数
名古屋刑務所への視察	1日×1名
名古屋刑務所豊橋刑務支所への視察	1日×1名
各務原病院への視察	1日×3名
グリーフケア団体への視察	1日×2名

外部発表

表 題	学会名等	発表形式	発表者
思春期における精神保健相談の対象属性と相談内容の変化	第70回 名古屋市公衆衛生研究発表会	口演	木村 安奈
依存症相談窓口における行動嗜癖の相談傾向と一般電話相談等との比較	第70回 名古屋市公衆衛生研究発表会	口演	木村 安奈

精神保健福祉相談

1 趣旨

精神保健福祉センターは、精神保健及び精神障害者福祉に関する相談及び指導のうち、複雑又は困難なものを行う。心の健康相談から、精神医療に係る相談、社会復帰相談をはじめ、アルコール、薬物、思春期等の特定相談を含め、精神保健福祉全般の相談を実施する。精神保健福祉センターは、これらの事例についての相談指導を行うためには、総合的技術センターとしての立場から適切な対応を行うとともに、必要に応じて関係諸機関の協力を求める。

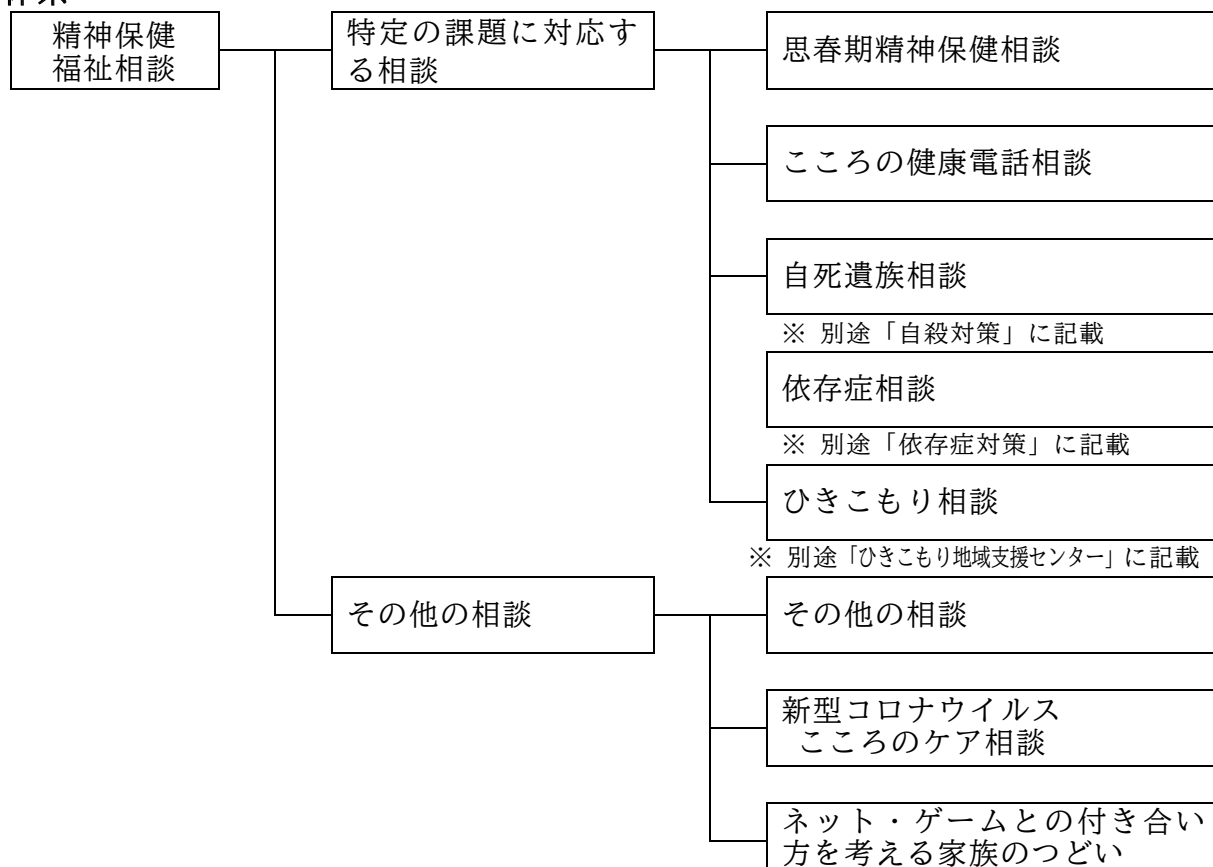
2 概況

令和5年度は、特定の課題に対応する相談として以下の相談を引き続き実施した。

「精神保健福祉センターにおける特定相談指導事業」における思春期精神保健相談に関する相談指導等として「思春期精神保健相談」を実施した。その他、自殺対策として「自死遺族相談」を、「心の健康づくり推進事業」における心の健康づくり相談事業として「こころの健康電話相談」を実施した。また、当センターは、「依存症対策総合支援事業」における依存症相談拠点として「依存症相談」を、さらに、「ひきこもり支援推進事業」におけるひきこもり地域支援センター設置運営事業の一環として「ひきこもり相談」を実施した。

また、感染が拡大した新型コロナウイルス感染症に関する不安など様々な心の不調を和らげることを目的として、電話相談「新型コロナウイルスこころのケア相談」を実施した。

3 体系



相談件数総括

1 特定の課題に対する相談

(1) 各種相談

	来所 (特定相談日)		来所 (左記以外)		電話		出張		合計	
	実※	延※	実	延	実	延	実	延	実	延
思春期精神保健相談	41	43	—	—	—	—	—	—	41	43
自死遺族相談	8	9	—	—	—	—	—	—	8	9
依存症相談	83	85	53	72	709	959	—	—	845	1,116
ひきこもり相談	31	31	175	855	330	1,526	24	75	560	2,487
司法書士相談	3	3	—	—	—	—	—	—	3	3
合計	166	171	228	927	1,039	2,485	24	75	1,457	3,658

※実：実件数、延：延件数

(2) こころの健康電話相談

電話相談件数	1,889件
--------	--------

2 その他の相談

(1) その他の相談

来所		電話		文書		合計	
実件数	延件数	実件数	延件数	実件数	延件数	実件数	延件数
68	92	1,460	1,960	40	50	1,568	2,102

(2) 新型コロナウイルスこころのケア相談

電話相談件数※	223件（8件）
---------	----------

※「こころの健康電話相談」で受けた新型コロナウイルス感染症に関する相談及び夜間電話相談件数を含む。

※（ ）内は、当センター受理分再掲。

※令和5年5月31日をもって委託電話窓口の設置終了。

思春期精神保健相談

1 趣旨

思春期に起こるさまざまな悩みや、こころの不調・こころの病気を抱えている本人やその家族等を対象に「思春期の精神保健相談」を実施するもの。平成30年度より精神科医師による相談枠を設けている。

2 実施状況

(1) 概要

名 称	「思春期の精神保健相談」
実 施 日	① 第1・第2木曜日、第4火曜日 14時～16時 予約制 ② 第1または第2火曜日 14時～15時 予約制
担 当	非常勤の特定相談員(医師、臨床心理士)、常勤の精神保健福祉相談員、保健師

(2) 実績

相談件数（相談来所者の男女別内訳）

	実件数	延件数
男 性	5	6
女 性	36	37
計	41	43

相談対象者の男女別年齢構成（初回来所時）

	～12歳	13～15歳	16～18歳	19～22歳	23歳～	計
男 性	1	10	11	5	1	28
女 性	0	6	6	1	0	13
計	1	16	17	6	1	41

来所経路

自 発								紹 介	計
	インターネット	保健センター	児 童相談所	学 校	病院	広 報 なごや	その他		
40	20	5	3	2	2	1	7	1	41

初回相談時の来所者

家族のみ	相談対象者(本人のみ)	本人と家族	その他	計
32	0	9	0	41

初回相談時の処遇

病院・診療所を紹介	その他の機関を紹介	終結	その他	計
3	4	31	3	41

こころの健康電話相談

1 趣旨

「心の健康づくり相談事業」の一環として、市民の心の健康に関する電話相談（匿名）を行うもの。

2 実施状況

(1) 概要

名 称	「こころの健康電話相談」
実 施 日	閉庁日を除く平日の12時45分～16時45分
担 当	非常勤の電話相談員

(2) 実績

月別相談延件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	144	135	149	151	171	163	169	178	166	156	139	168	1,889

※ 新型コロナウイルス感染症に関する相談を含む。

3 研修

こころの健康電話相談を担当している電話相談員等を対象とし、精神保健福祉施策及び精神障害（者）についての基本的な知識を習得するため研修を開催するもの。

実 施 日	内 容	参 加
第Ⅰ期 8月30日	① 講義「こころの声に耳を傾けよう」 講師：くらしケア名古屋訪問看護ステーション 看護師 西井拓巳氏、精神保健福祉士 安達 恵里香 氏 ②交流会 講師：精神保健福祉センター職員	9名
第Ⅱ期 3月8日	① 講義「ピアサポーターからの発表」 講師：ピアサポーター 講義「障害者基幹相談支援センターについて」 講師：東区障害者基幹相談支援センター職員 ②交流会 講師：精神保健福祉センター職員	12名

自死遺族相談

※ 別途、P58-59「自殺対策（自死遺族に対する支援）」に記載

依存症相談

※ 別途、P73-76「依存症対策（依存症のご本人やご家族等を対象とした相談）」に記載

ひきこもり相談

※ 別途、P83-84「ひきこもり地域支援センター（ひきこもりのご本人やご家族等を対象とした相談）」に記載

その他の相談

1 一般予約相談

実 人 員	延人員												
	高齢期	社会 復帰	アルコール	薬物	ギャンブル	ゲーム	思春期	心の健康 づくり	うつ 状態	摂食 障害	てんかん	その他	計
53	0	0	2	5	61	2	0	0	0	0	0	2	72

2 来所相談

実 人 員	延人員												
	高齢期	社会 復帰	アルコール	薬物	ギャンブル	ゲーム	思春期	心の健康 づくり	うつ 状態	摂食 障害	てんかん	その他	計
15	0	12	2	1	0	0	0	2	0	0	0	3	20

3 一般電話相談

実 人 員	延人員												
	高齢期	社会 復帰	アルコール	薬物	ギャンブル	ゲーム	思春期	心の健康 づくり	うつ 状態	摂食 障害	てんかん	その他	計
1,460	26	786	20	13	9	8	105	386	91	15	5	496	1,960

※ 新型コロナウイルスこころのケア相談件数含む

4 文書相談

実 人 員	延人員												
	高齢期	社会 復帰	アルコール	薬物	ギャンブル	ゲーム	思春期	心の健康 づくり	うつ 状態	摂食 障害	てんかん	その他	計
40	3	17	6	4	1	1	4	6	5	0	0	3	50

※ メール相談含む

新型コロナウイルスこころのケア相談

1 趣旨

新型コロナウイルス感染症に関する不安など様々な心の不調を和らげることを目的として電話相談を行うもの。

2 実施状況

(1) 概要

名 称	「新型コロナウイルスこころのケア相談」
実 施 日	閉庁日を除く平日の8時45分～22時（12時～13時をのぞく）
担 当	精神保健福祉相談員、保健師等

※ 夜間（17時～22時）については、名古屋市から委託を受けた民間団体が実施。

(2) 実績

月別相談延件数※

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男	78 (2)	70 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	149 (4)
女	37 (1)	34 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	74 (4)
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	115 (3)	104 (1)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	223 (8)

※ 「こころの健康電話相談」で受けた新型コロナウイルス感染症に関する相談及び
夜間電話相談件数を含む。

※ () 内は、当センター受理分再掲。

※令和5年5月31日をもって電話窓口の設置終了

「ネット・ゲームとの付き合い方を考える家族のつどい」

1 趣旨

子どものネット・ゲームの使用について悩んでいる親を対象に、ネット・ゲームやそれらを使用する子の心情への理解を深めつつ、子への関わり方を見直すことで、家族自身が問題を解決する意欲が高められることを目的に令和3年度から実施しているもの。

2 実施状況

(1) 対象：子どものネット・ゲームの使用について悩んでいる名古屋市在住又は
在勤の家族（当センター思春期精神保健相談利用者を対象とする）

(2) 会場：名古屋市精神保健福祉センター

(3) 実績

実施日	内 容	参 加
第1回 9月 8日	ア 講話「ネット・ゲームへの理解と対応Ⅰ ～ネット・ゲームのことを知ろう」 講師：精神保健福祉センター職員 イ 交流会	1 名
第2回 9月27日	ア 講話「思春期の特徴と理解」 講師：臨床心理士 鈴木 昭江 氏 イ 交流会	1 名

第3回 10月25日	ア 講話「ネット・ゲームがやめられない？～家族にできること～」 講師：一般社団法人ネット・ゲーム依存家族の会 代表理事 黒田 沙希子 氏 イ 交流会	2名
第4回 11月22日	ア 講話「ネット・ゲームへの理解と対応Ⅱ ～コミュニケーションを見直そう」 講師：精神保健福祉センター職員 イ 交流会	1名
第5回 12月13日	ア 講話「家族自身の生活を豊かにするために」 講師：臨床心理士 鈴木 昭江 氏 イ 交流会	1名

組織育成

1 趣旨

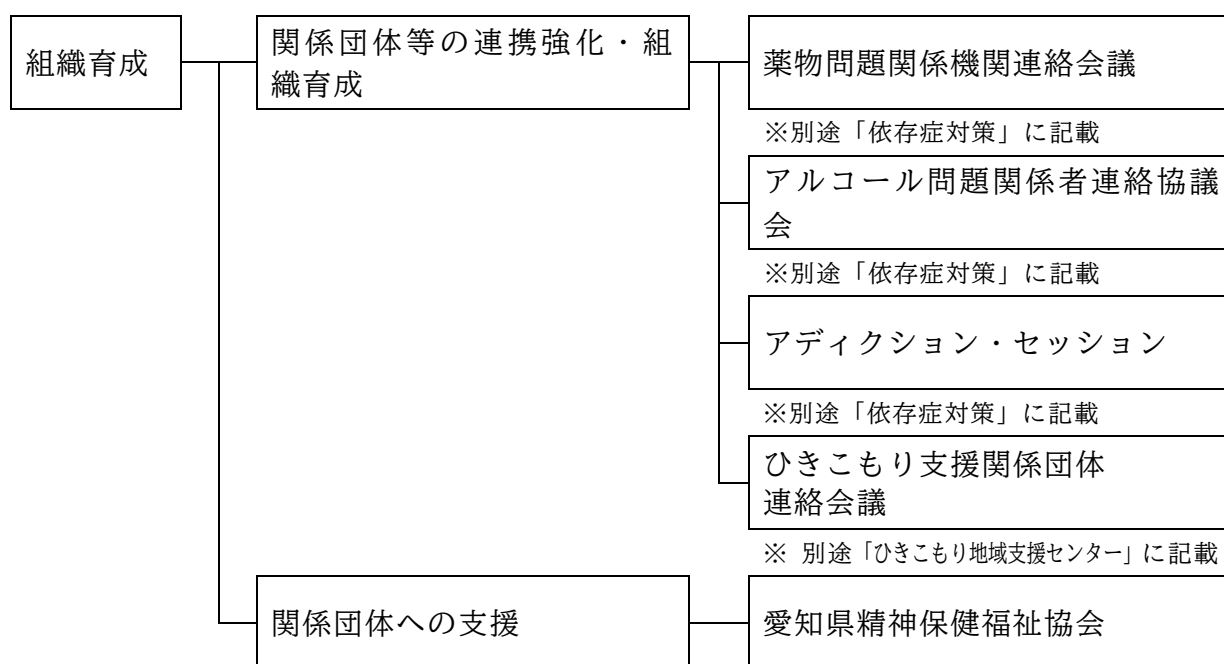
地域精神保健福祉の向上を図るためには、地域住民による組織活動が必要である。このため、精神保健福祉センターは、家族会、患者会、社会復帰事業団体など組織の育成に努めるとともに、保健センター並びに地区単位での組織活動に協力する。

2 概況

令和5年度は、アルコール問題関係者連絡協議会の開催や、薬物問題関係機関連絡会議の愛知県との共催など、各種会議を開催した。また、愛知県精神保健福祉協会についても、引き続き所長が常務理事並びに広報研修部会長及び精神保健福祉基金審査委員長に委嘱され、精神保健福祉基金審査委員会については、当センターで委員会の事務を務めた。

その他、所長は名古屋連合断酒会の顧問にも就任している。

3 体系



薬物問題関係機関連絡会議

※ 別途、P71-73「依存症対策（関係機関との連携会議）」に記載

アルコール問題関係者連絡協議会

※ 別途、P71-73「依存症対策（関係機関との連携会議）」に記載

※ 別途、P77-79「依存症対策（依存症に関する普及啓発および情報発信）」に記載

ひきこもり支援関係団体連絡会議

※ 別途、P85「ひきこもり地域支援センター（ひきこもり支援関係機関との連絡調整等）」に記載

関係団体の支援

愛知県精神保健福祉協会

愛知県精神保健福祉協会は、愛知県における精神保健及び精神障害者福祉に関する活動の推進を努めるために、趣旨に賛同する会員によって構成され、専門部会や委員会を設置して各種事業を行っている。事務局は、愛知県精神保健福祉センターに置かれている。

当センターは、所長が常務理事並びに広報研修部会長及び精神保健福祉基金審査委員長に委嘱されている。さらに、精神保健福祉基金審査委員会については、当センター職員が委員に委嘱され、委員会の事務を担っている。

(1)事業内容（関係分）

ア 会議

（ア） 総会

（イ） 理事会

（ウ） 常務理事会

イ 専門部会・委員会

（ア） 広報研修部会

精神保健福祉に関する知識の普及・啓発を行うため『こころの健康』を年2回発行し、「こころの健康を考える講演会」、「シンポジウム」を実施している。

令和元年度以降は、シンポジウムが新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止。

(イ) 精神保健福祉基金審査委員会

愛知県精神保健福祉協会は、主として精神障害者を対象とするグループホーム、小規模作業所等を運営する者に対し運営又は整備にかかる資金を無利子で貸付ける「精神保健福祉基金」の事業を行っており、本委員会は、適正な貸し付けを行うための審査を行っている。

また、平成30年度より精神障害者の社会参加や自立の推進に取り組む、個人やグループ・団体の活動を支援するため、本基金を活用した「愛知県精神保健福祉協会会長奨励賞」の授与を行っている。

(2)実績

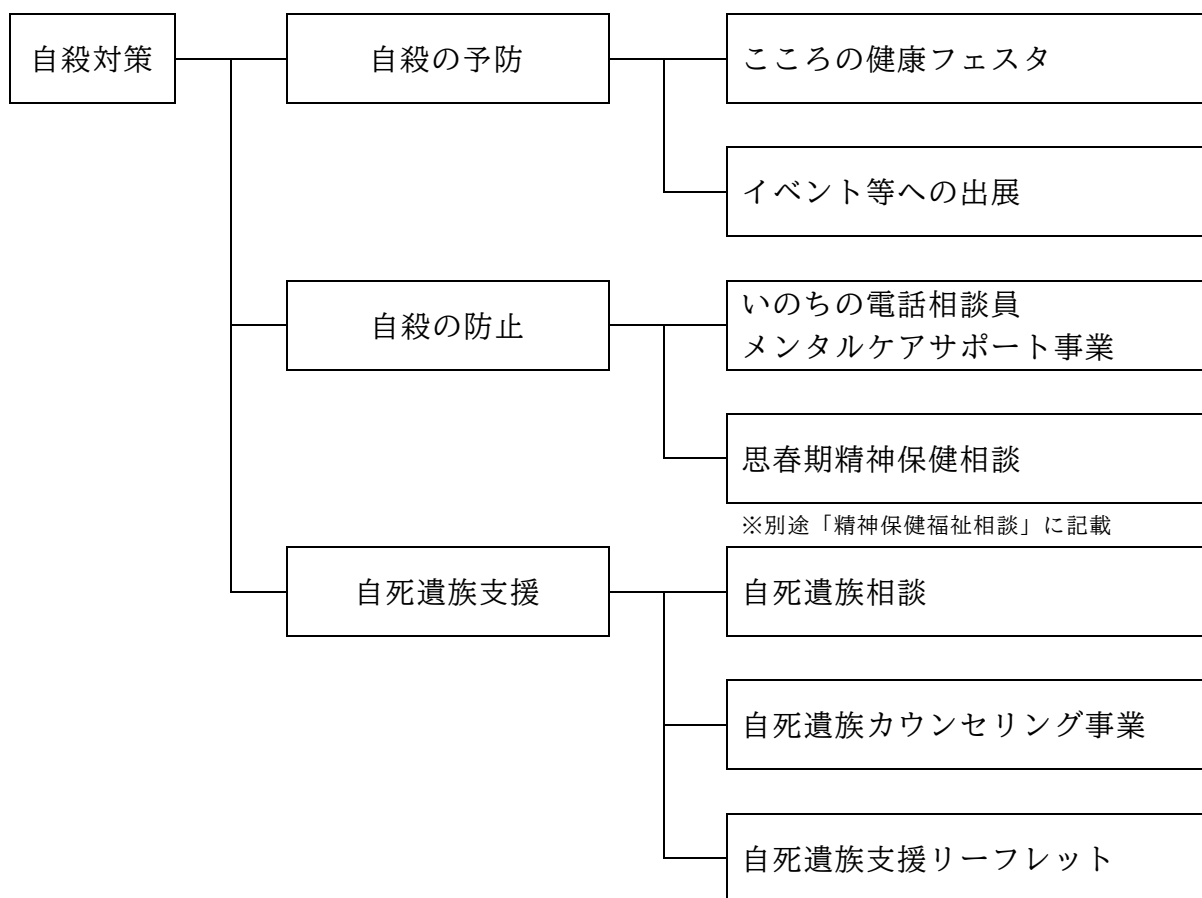
会議・事業名	参加回数
総会（オンライン開催）	1
理事会（オンライン開催）	1
常務理事会（オンライン開催）	1
広報研修部会（書面開催・オンライン開催）	2
愛知県精神保健福祉協会長表彰選考会（オンライン開催）	1
精神保健福祉基金審査委員会（オンライン開催）	1
愛知県精神保健福祉協会長奨励賞表彰選考会（オンライン開催）	1
こころの健康を考える講演会（オンライン開催）	1

自殺対策

1 趣旨

「自殺の予防」、「自殺の防止」、「自死遺族に対する支援」という3つの視点に立ち、自殺対策として各種事業を実施するもの。大切な人を自死で亡くされたご親族等の社会復帰や二次的な自殺の防止を目的とする「自死遺族相談」を始め、自殺対策に関する普及啓発および情報発信等を行う。

2 体系



自殺の予防

1 「こころの健康フェスタなごや」の開催

(1) 趣旨

市民に対しこころの健康づくりと、精神疾患への正しい理解の促進を目的にイベントを開催するもの。平成24年度から開催している。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のために令和元年度は中止、令和2・3年度はオンラインで開催した。令和4年度からは再び会場で開催している。

(2) 実績

ア 日時：令和6年3月20日(水・祝) 10時～16時

イ 会場：オアシス21

ウ 来場者数：約1,000名

エ 内容

項 目	内 容
ステージ企画	<こころの健康トークショー> 日本睡眠協会代表理事を務める今枝昌子さんと、シンガーソングライター MASH 氏によるトークショー。MASH 氏によるミニライブ。 <オリジナル紙芝居ライブ> 紙芝居師「たっちゃん」がオリジナル紙芝居「話さんかじいさん」(※)上演。(※制作：紙芝居屋の「ガンチャン」) <ライブステージ> いのちの支援啓発ソング「Dear my」歌唱パフォーマンス 出演者：SO.ON project、HAT、Gospel-M
フロア企画	<出店ブースコーナー> ・なわであそぼう（なわとびづくり等） ・命の門番 誰もが誰かのゲートキーパー（愛知いのちの電話協会） ・おねむり保健室（一般社団法人日本快眠協会） ・福祉施設の自主製品販売

2 イベント等への出展

(1) 「スマイル！こころの絆創膏デー2023」参加

子ども・若者向けイベント「スマイル！こころの絆創膏デー2023」（健康福祉局健康増進課主催）に参加。当センター事業について、相談機関PRステージで紹介した。また、出展ブースにおいて、リーフレット等を配架し、職員が説明等を行った。

自殺の防止

1 いのちの電話相談員メンタルケアサポート事業

(1) 趣旨

社会福祉法人愛知いのちの電話協会の電話相談員を対象として、臨床心理士による相談を実施するもの。

(2) 概要

名 称	「いのちの電話相談員メンタルケアサポート事業」
実 施 日	毎月第3火曜日の14時～15時（8月はなし）
担 当	非常勤の特定相談員（臨床心理士）

(3) 実績
相談件数

実件数	延件数
10	10

2 思春期精神保健相談

※ 別途、P47-48「精神保健福祉相談（思春期精神保健相談）」に記載

自死遺族に対する支援

1 自死遺族相談

(1) 概要

名 称	「自死遺族相談」
実 施 日	毎月第3火曜日の10時～12時、予約制
担 当	非常勤の特定相談員(臨床心理士)、常勤の精神保健福祉相談員、保健師

(2) 実績

相談件数

	実件数	延件数
男 性	0	0
女 性	8	9
計	8	9

来所経路（実人数）

自発							紹介	計
	インターネット	広報なごや	パンフレット等	知人・家族の勧め	病院	区役所		
9	4	1	0	1	1	1	0	8

自死者との関係（実人数）

夫	妻	父	母	息子	娘	兄弟姉妹	その他	計
0	4	0	3	0	1	0	0	8

初回相談時の処遇

病院・診療所を紹介	その他の機関を紹介	終結	自死遺族カウンセリング	継続	計
0	2	5	1	0	8

2 自死遺族カウンセリング事業

(1) 概要

自死遺族相談を通じて、継続的なカウンセリングが必要と認められた方について、名古屋大学心の発達支援研究実践センター心理発達相談室、名古屋市立

大学医療心理センター臨床心理相談室、金城学院大学心理臨床相談室及び中京大学臨床心理相談室において、臨床心理士によるカウンセリングを実施するもの。

(2) 実績

相談件数

	実件数	延件数
男 性	0	0
女 性	6	57
計	6	57

3 自死遺族関連リーフレット

(1) 趣旨

大切な人を自死で亡くされた方はさまざまな心情を抱えながら生活している。遺族の方の心の負担軽減及び支援、遺族の心情などについて理解を深めることを目的として、自死遺族に関連するリーフレットを発行するもの。

(2) 実績

「自殺総合対策大綱」の見直しを受け、令和5年度にリーフレット3種の内容を見直し、大幅に改訂。内容は、自死遺族の自助グループに原稿作成、監修を委託した。リーフレットは、関係機関への配布、市ウェブサイトへ掲載をした。

うつ病の方を対象とした就労支援関連事業

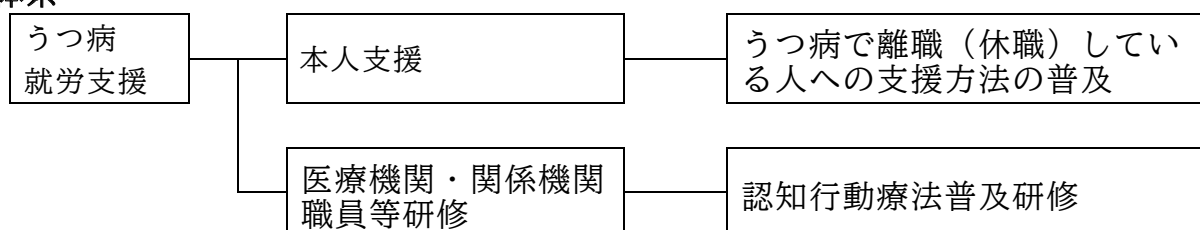
1 趣旨

うつ病等により休職・離職している方の復職・再就職を支援する本人向けのプログラムの普及や、支援者である医療機関等の関係機関を対象とした研修等を行うもの。

2 概況

令和5年度は、認知行動療法普及研修を実施した。

3 体系



※ 別途「人材育成」に記載

うつ病で離職（休職）している人への支援方法の普及

1 趣旨

当センターにおいて実施してきた、うつ病等で離職（休職）している人を対象としたリワーク（復職）支援について、取組内容をまとめたものを一般に公開し、知識・技術の普及を図るもの。

2 実績

(1) 「こころば版うつ病リワークプログラムのススメ」の普及

当センターで平成20年度～平成22年度まで実施した「うつ病ワークデザインコース」と平成23年度に実施した「うつ病ワークステップコース」の取組みをまとめた冊子「こころば版うつ病リワークプログラムのススメ-名古屋市精神保健福祉センターの実践から-」を市公式ウェブサイトに掲載した。

(2) 「こころばにおける『リワーク支援プログラム』のまとめ」の普及

当センターで平成24年度～令和元年度まで実施した「リワーク支援プログラム」の取組みをまとめた冊子「こころばにおける『リワーク支援プログラム』のまとめ」を市公式ウェブサイトに掲載した。

認知行動療法普及研修

※ 別途、P34「人材育成（認知行動療法普及研修）」に記載

精神医療審査会の事務

1 趣旨

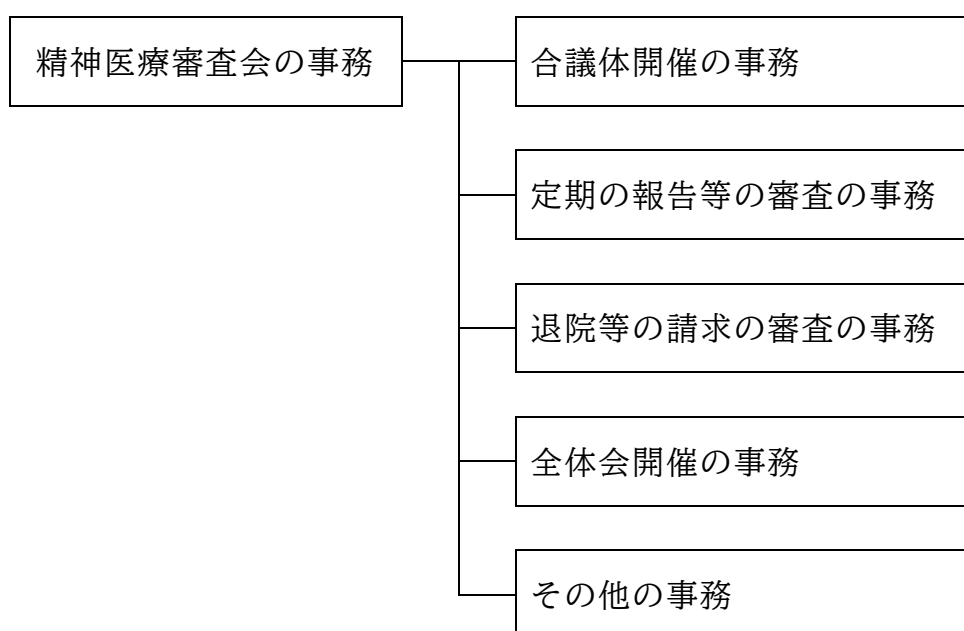
精神医療審査会は、精神障害者の人権に配慮しつつその適正な医療及び保護を確保するために、精神科病院に入院している精神障害者の処遇等について専門的かつ独立的な機関として審査を行うために設置されたものである。

精神医療審査会の審査に関する事務の専門性に配慮し審査の客観性・独立性の一層の確保を図るため、開催事務及び審査の遂行上必要な調査その他精神医療審査会の審査に関する事務は、本市の精神保健福祉主管部局ではなく精神保健福祉センターにおいて行うものとする。

2 概況

平成11年の精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（以下「精神保健福祉法」という。）の改正により、平成14年度から精神医療審査会の事務局としての業務は精神保健福祉センターで行うこととなっている。平成16年度から、合議体数を3から4に増やすとともに、平成22年度からは予備委員を設置し、審査の充実を図っている。また、平成25年度から、退院等の請求受付窓口が主管課より移管され、業務の迅速化をすすめている。

3 体系



合議体開催の事務

1 合議体の構成

4合議体が設置されている。各合議体の委員数は下表の通り。

区 分	委 員 区 分			計
	医療委員	法律家委員	有識者委員	
第 1 合 議 体	3名	1名	1名	5名
第 2 合 議 体	3名	1名	1名	5名
第 3 合 議 体	3名	1名	1名	5名
第 4 合 議 体	3名	1名	1名	5名
予 備 委 員	4名	4名	4名	12名
計	16名	8名	8名	32名

2 開催回数

1合議体8回開催で、合計32回開催された。

3 会議の公開

会議の開催（名称、日時、場所、議題、非公開の理由、照会先等）及び会議の概要（名称、日時、場所、議題、審査件数、出席者数、非公開の理由、照会先）を公表している。

定期の報告等の審査の事務

定期の報告等の審査結果

書類種別	審査件数	審査結果	
措置入院者の定期病状報告書 （再審査を要したもの）	43 (2)	現在の入院形態での入院適当	42
		他の入院形態への移行が適当	0
		報告を求める	0
		入院の継続は不要	0
		審査中	1
医療保護入院者の定期病状報告書 （再審査を要したもの）	875 (18)	現在の入院形態での入院適当	873
		他の入院形態への移行が適当	0
		報告を求める	0
		入院の継続は不要	0
		審査中	2
医療保護入院者の入院届 （再審査を要したもの）	2,950 (119)	現在の入院形態での入院適当	2,943
		他の入院形態への移行が適当	0
		報告を求める	0
		入院の継続は不要	0
		審査中	7
総件数 （再審査を要したもの）	3,868 (139)	現在の入院形態での入院適当	3,858
		他の入院形態への移行が適当	0
		報告を求める	0
		入院の継続は不要	0
		審査中	10

退院等の請求の審査の事務

退院等の請求の審査結果

種別	入院形態	請求件数	審査件数	審査結果		取下件数	要件消失	継続件数
退院請求	措置	5	3	現在の入院形態での入院適当	3	3	0	0
				他の入院形態への移行が適当	0			
				入院の継続は不要	0			
	医療保護	76	50	現在の入院形態での入院適当	49	21	6	6
				他の入院形態への移行が適当	1			
				入院の継続は不要	0			
	任意	1	0	現在の入院形態での入院適当	0	1	0	0
				他の入院形態への移行が適当	0			
				入院の継続は不要	0			
	小計	82	53	現在の入院形態での入院適当	52	25	6	6
				他の入院形態への移行が適当	1			
				入院の継続は不要	0			
処遇改善請求	措置	3 (0)	1 (0)	処遇は適当	1	3 (2)	0 (0)	0 (0)
				処遇は不適当	0			
	医療保護	42 (31)	25 (18)	処遇は適当	24	13 (9)	3 (3)	4 (4)
				処遇は不適当	1			
	任意	0 (0)	0 (0)	処遇は適当	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)
				処遇は不適当	0			
	小計	45 (31)	26 (18)	処遇は適当	25	16 (11)	3 (3)	4 (4)
				処遇は不適当	1			
合計		127 (31)	79 (18)			41 (11)	9 (3)	10 (4)

※「請求件数」には前年度からの継続件数9件を含まない。

※()内は、「処遇改善請求」のうち、「退院請求」との併請求を再掲。

全体会開催の事務

- 開催日時 令和5年4月7日
- 開催場所 精神保健福祉センター研修室
- 出席者数 審査会委員22名
- その他 傍聴者なし

その他の事務

令和５年４月２１日に市内精神科病院の事務担当者を対象とした、精神保健福祉関係事務連絡会議を開催した。出席者数は１６病院２１名。

精神障害者保健福祉手帳及び自立支援医療（精神通院医療）の判定

1 趣旨

精神保健福祉センターは、精神保健福祉法第45条第1項の規定による精神障害者保健福祉手帳の申請に対する判定業務及び障害者総合支援法第52条第1項に規定する自立支援医療（精神通院医療）の判定業務を行うものとする。

2 概況

平成11年の精神保健福祉法の改正にともない、平成14年度から精神障害者通院医療費公費負担及び精神障害者保健福祉手帳に関する判定事務を精神保健福祉センターで行うこととなった。平成18年度からは、障害者総合支援法（制度開始時は障害者自立支援法）に基づく自立支援医療（精神通院医療）の判定業務を行っている。精神障害者保健福祉手帳及び自立支援医療（精神通院医療）申請のうち、診断書添付の申請については判定委員により、また年金証書の写し添付の申請については各年金事務所に照会の上、判定を行った。

3 体系

精神障害者保健福祉手帳及び
自立支援医療(精神通院医療)の
判定

精神障害者保健福祉手帳の判定

自立支援医療(精神通院医療)の判定

精神障害者保健福祉手帳

1 令和5年度申請状況

	診断書	年金証書	合計
当該年度における申請者数 ()内は更新者数再掲	13,486 (9,702)	5,862 (5,527)	19,348 (15,229)

2 精神障害者保健福祉手帳所持者数の推移

3月末現在

年度 区分	R1	R2	R3	R4	R5
1級	1,591	1,679	1,793	1,895	1,970
2級	17,233	18,167	19,851	21,696	23,395
3級	8,788	9,274	9,723	10,322	11,292
計	27,612	29,120	31,367	33,913	36,657

3 承認件数

区分		千種	東	北	(楠)	西	(山田)	中村	中
新規	1級	9	7	5	6	7	2	7	4
	2級	124	56	98	36	71	44	121	85
	3級	147	57	111	37	91	52	135	105
	小計	280	120	214	79	169	98	263	194
等級変更	1級	1	1	0	0	0	1	3	0
	2級	18	10	15	9	7	12	15	19
	3級	0	0	0	0	0	0	1	0
	小計	19	11	15	9	7	13	19	19
更新	1級	53	8	47	19	32	14	59	33
	2級	742	267	557	211	345	254	704	327
	3級	242	124	237	87	147	114	283	164
	小計	1,037	399	841	317	524	382	1,046	524
市外からの転入	1級	2	1	2	1	2	1	2	5
	2級	34	17	27	4	27	14	49	29
	3級	23	13	12	1	14	6	26	19
	小計	59	31	41	6	43	21	77	53
計	1級	65	17	54	26	41	18	71	42
	2級	918	350	697	260	450	324	889	460
	3級	412	194	360	125	252	172	445	288
	合計	1,395	561	1,111	411	743	514	1,405	790

区分		昭和	瑞穂	熱田	中川	(富田)	港	(南陽)	南
新規	1級	4	4	1	7	4	7	0	10
	2級	60	65	42	76	62	73	29	94
	3級	81	79	75	135	64	83	21	102
	小計	145	148	118	218	130	163	50	206
等級変更	1級	1	1	0	2	0	2	0	1
	2級	11	19	12	16	18	19	6	16
	3級	0	0	0	0	0	1	0	0
	小計	12	20	12	18	18	22	6	17
更新	1級	29	34	25	54	40	40	16	61
	2級	409	399	264	629	391	527	137	662
	3級	194	200	131	275	155	213	52	279
	小計	632	633	420	958	586	780	205	1,002
市外からの転入	1級	1	4	3	5	3	1	0	5
	2級	19	20	13	37	22	20	5	26
	3級	10	9	10	15	0	13	1	14
	小計	30	33	26	57	25	34	6	45
計	1級	35	43	29	68	47	50	16	77
	2級	499	503	331	758	493	639	177	798
	3級	285	288	216	425	219	310	74	395
	合計	819	834	576	1,251	759	999	267	1,270

区分		守山	(志段味)	緑	(徳重)	名東	天白	合計
新規	1級	16	9	13	8	11	15	156
	2級	114	21	91	65	87	136	1,650
	3級	104	17	108	81	148	146	1,979
	小計	234	47	212	154	246	297	3,785
等級変更	1級	3	0	0	1	1	4	22
	2級	17	2	22	11	14	22	310
	3級	0	0	0	0	0	0	2
	小計	20	2	22	12	15	26	334
更新	1級	83	30	45	32	71	68	893
	2級	680	154	617	403	745	787	10,211
	3級	236	39	208	142	273	330	4,125
	小計	999	223	870	577	1,089	1,185	15,229
市外からの転入	1級	4	5	4	3	4	3	61
	2級	27	5	17	17	45	55	529
	3級	12	1	14	8	23	30	274
	小計	43	11	35	28	72	88	864
計	1級	106	44	62	44	87	90	1,132
	2級	838	182	747	496	891	1,000	12,700
	3級	352	57	330	231	444	506	6,380
	合計	1,296	283	1,139	771	1,422	1,596	20,212

※承認件数は、令和4年度中に承認のあったものの新規、等級変更、更新、転入の承認件数

※（ ）内は、支所名

自立支援医療（精神通院医療）

障害者総合支援法の施行により、それまでの精神保健福祉法第 32 条の通院医療費公費負担制度は、平成 18 年 4 月 1 日より、障害者総合支援法（制度開始時は障害者自立支援法）第 52 条に基づく自立支援医療（精神通院医療）に移行した。

在宅精神障害者が必要な医療を受けやすくするため、通院医療を受ける場合の一部負担金を公費で助成するという制度の目的に変更はないが、１）原則として医療費の 1 割負担、２）所得区分による月額負担上限額の設定、３）利用する医療機関は所在地の都道府県または指定都市の指定医療機関であることが必要、などが変更となった。

1 区別申請者の状況

区 分		千種	東	北	(楠)	西	(山田)	中村	中
新 規	申請者数	645	373	589	191	489	242	754	516
	承認者数	645	373	588	190	489	241	751	514
	不承認者数	0	0	1	1	0	1	3	2
	保留その他	0	0	0	0	0	0	0	0
市 外 転 入	申請者数	72	50	71	14	74	28	91	76
	承認者数	72	50	71	14	74	28	91	76
	不承認者数	0	0	0	0	0	0	0	0
	保留その他	0	0	0	0	0	0	0	0
再認定	申請者数	2,909	1,298	2,774	885	1,904	1,343	3,130	1,769
	承認者数	2,908	1,298	2,774	884	1,904	1,343	3,128	1,768
	不承認者数	1	0	0	1	0	0	2	1
	保留その他	0	0	0	0	0	0	0	0
変 更 申 請	申請者数	513	273	273	166	539	198	823	356
	承認者数	513	273	273	166	539	198	823	356
	不承認者数	0	0	0	0	0	0	0	0
	保留その他	0	0	0	0	0	0	0	0
変更届	申請者数	699	376	625	188	454	306	937	531
	承認者数	699	376	625	188	454	306	937	531
	不承認者数	0	0	0	0	0	0	0	0
	保留その他	0	0	0	0	0	0	0	0
再交付	申請者数	122	38	101	40	73	36	146	75
	承認者数	122	38	101	40	73	36	146	75
	不承認者数	0	0	0	0	0	0	0	0
	保留その他	0	0	0	0	0	0	0	0
変 更 申 請 進達有	申請者数	74	22	51	18	36	13	67	45
	承認者数	73	21	46	16	35	13	65	45
	不承認者数	1	1	5	2	1	0	2	0
	保留その他	0	0	0	0	0	0	0	0

区 分		昭和	瑞穂	熱田	中川	(富田)	港	(南陽)	南
新 規	申請者数	458	451	282	594	353	441	130	541
	承認者数	457	450	281	594	352	439	130	539
	不承認者数	1	1	1	0	1	2	0	2
	保留その他	0	0	0	0	0	0	0	0
市 外 転 入	申請者数	46	50	27	89	38	46	18	60
	承認者数	46	50	27	89	38	46	18	60
	不承認者数	0	0	0	0	0	0	0	0
	保留その他	0	0	0	0	0	0	0	0
再認定	申請者数	1,822	2,037	1,282	2,931	1,661	2,311	578	2,914
	承認者数	1,821	2,036	1,281	2,931	1,660	2,311	578	2,913
	不承認者数	1	1	1	0	1	0	0	1
	保留その他	0	0	0	0	0	0	0	0
変 更 申 請	申請者数	371	407	300	596	419	493	133	508
	承認者数	371	407	300	596	419	493	133	508
	不承認者数	0	0	0	0	0	0	0	0
	保留その他	0	0	0	0	0	0	0	0
変更届	申請者数	461	519	345	568	300	558	121	554
	承認者数	461	519	345	568	300	558	121	554
	不承認者数	0	0	0	0	0	0	0	0
	保留その他	0	0	0	0	0	0	0	0
再交付	申請者数	64	72	47	96	64	85	12	89
	承認者数	64	72	47	96	64	85	12	89
	不承認者数	0	0	0	0	0	0	0	0
	保留その他	0	0	0	0	0	0	0	0
変 更 申 請 進 達 有	申請者数	25	41	29	67	39	47	14	57
	承認者数	25	39	29	67	38	47	14	57
	不承認者数	0	2	0	0	1	0	0	0
	保留その他	0	0	0	0	0	0	0	0

区 分		守山	(志段味)	緑	(徳重)	名東	天白	合計
新 規	申請者数	543	105	518	412	659	694	9,980
	承認者数	543	105	518	411	658	694	9,962
	不承認者数	0	0	0	1	1	0	18
	保留その他	0	0	0	0	0	0	0
市 外 転 入	申請者数	59	9	53	41	84	111	1,207
	承認者数	59	9	53	41	84	111	1,207
	不承認者数	0	0	0	0	0	0	0
	保留その他	0	0	0	0	0	0	0
再認定	申請者数	2,467	518	2,554	2,029	2,907	3,157	45,180
	承認者数	2,467	518	2,554	2,029	2,907	3,156	45,169
	不承認者数	0	0	0	0	0	1	11
	保留その他	0	0	0	0	0	0	0
変 更 申 請	申請者数	436	114	621	431	823	849	9,857
	承認者数	436	114	621	431	823	849	9,857
	不承認者数	0	0	0	0	0	0	0
	保留その他	0	0	0	0	0	0	0
変更届	申請者数	632	119	629	330	564	913	10,729
	承認者数	632	119	629	330	564	913	10,729
	不承認者数	0	0	0	0	0	0	0
	保留その他	0	0	0	0	0	0	0
再交付	申請者数	92	15	77	56	127	104	1,631
	承認者数	92	15	77	56	127	104	1,631
	不承認者数	0	0	0	0	0	0	0
	保留その他	0	0	0	0	0	0	0
変 更 申 請 進達有	申請者数	35	10	31	24	71	80	896
	承認者数	34	10	30	24	70	78	876
	不承認者数	1	0	1	0	1	2	20
	保留その他	0	0	0	0	0	0	0

※ () 内は、支所名

2 自立支援医療（精神通院医療）受給者証所持者数の推移

3 月末現在

年 度	R1	R2	R3	R4	R5
所持者数	41,124	48,320	48,485	51,345	54,221

依存症対策

1 趣旨

当センターは、平成30年7月より依存症相談拠点として、依存症相談窓口を開設し、依存症に関連した各種事業を実施している。

主な事業内容としては、依存症専用電話を設置し電話相談を行うと共に、従来からある特定相談を充実させ、依存症のご本人やご家族等の面接相談を行っている。

また、関係機関との連携強化を目的とした会議や関係機関の職員等を対象とした研修を実施し、パンフレットの発行や講演会の開催等依存症に関する普及啓発を行うなど、依存症のご本人やご家族への支援の充実を図っている。

2 主な事業内容

- (1) 関係機関との連携会議
 - ・アルコール問題関係者連絡協議会の開催
 - ・薬物問題関係機関連絡会議の開催
- (2) 依存症のご本人やご家族等を対象とした相談
 - ・来所相談（特定相談・一般相談）
 - ・電話相談
- (3) 依存症支援者研修
 - ・依存症基礎講座の開催
 - ・ギャンブル問題関係者研修の開催
- (4) 依存症に関する普及啓発および情報発信
 - ・各種リーフレット、広報用カード等の配布
 - ・名古屋市嗜癖問題支援機関リストの作成・配布
 - ・アディクション・セッションの開催
 - ・依存症講演会の開催
- (5) 本人支援
 - ・NAT-G（なごやギャンブル障害回復トレーニングプログラム）の実施
- (6) 家族支援
 - ・依存症家族教室（アルコール・薬物・ギャンブル問題）の開催
 - ・依存症家族のつどいの開催

関係機関との連携会議

1 アルコール問題関係者連絡協議会

(1) 趣旨

依存症患者等（アルコール問題）に対する包括的な支援を実施するため、行政や医療、福祉、司法を含めた関係機関が密接な連携と、地域におけるアルコール依存症に関する情報や課題の共有、研修計画の調整等を図るため、協議の場を設置する。

(2) 実績

構 成 員	・ 名古屋市内依存症専門医療機関・依存症治療拠点機関の関係職員 ・ 市内アルコール問題を取り扱う自助団体当事者 ・ 市内保健福祉センター（代表区）精神保健福祉相談員 ・ 名古屋市健康福祉局健康増進課職員 ・ 名古屋市精神保健福祉センター職員 ・ その他アルコール問題を取り扱う関係機関	
実 施 日 実 施 方 法 参 加	第1回目 （会場開催）	令和5年9月28日（木） 会場：名古屋市精神保健福祉センター 17名（9機関）
	第2回目 （会場開催）	令和6年2月14日（水） 会場：名古屋市精神保健福祉センター 26名（18機関）
	第3回目 （会場開催）	令和6年2月14日（水） 会場：名古屋市精神保健福祉センター 16名（7機関）
内 容	・ 地域における身体科治療機関との連携や支援体制の構築・推進方法について ・ 本会議を実施していくための意見交換 ・ 事例検討会・グループワーク	

2 薬物問題関係機関連絡会議

(1) 趣旨

薬物乱用が社会問題化している昨今、薬物問題に関わる関係機関の連絡会議を開催し、薬物問題への取り組みについて相互の理解を深めるとともに連携上の課題について検討し、ネットワークづくりをめざすもの。

(2) 実績

対 象	県内保健所、精神科医療機関、東海北陸厚生局麻薬取締部、名古屋矯正管区、名古屋保護観察所、名古屋少年鑑別所、中部地方更生保護委員会、愛知県健康医務部医務課こころの健康推進室、愛知家族会、愛知県弁護士会、愛知自啓会、岡崎自啓会、名古屋ダルク、三河ダルク、愛知県生活衛生部医薬安全課、名古屋市健康福祉局健康増進課、名古屋市健康福祉局環境薬務課、名古屋市スポーツ市民局男女平等参画推進室、等
実 施 主 体	愛知県精神保健福祉センター及び名古屋市精神保健福祉センターの共催
実 施 方 法	会場開催（会場：愛知県三の丸庁舎）
実 施 日	3月11日

内 容	- 関係機関からの情報提供・情報交換 - 話題提供「問題解決しない事例検討会」 講師：日本福祉大学経営学部医療・福祉マネジメント学科 准教授 田中和彦 氏 事例提供者：愛知県地域生活定着センター 高木 崇 氏 野村 たて美 氏
参 加	51名（37機関）

依存症のご本人やご家族などを対象とした相談

1 趣旨

アルコール、薬物、ギャンブルなどの依存症に関する相談事業を実施。平成29年度まで「薬物リハビリテーション相談」として実施していたが、平成30年7月より依存症相談拠点として「依存症に関する専門相談窓口」を設置。また平成30年6月より、自助グループ当事者によるピア相談も実施。併せて、依存症の特性に応じて、令和元年度より司法書士による債務相談を開始した。

2 相談実施状況

(1) 特定相談・ピア相談

ア 概要

実 施 日	毎月の日程 ※ 各日予約制 <依存症に関するご相談> - 奇数月 第2月曜日 14時～ - 毎月 第4火曜日 14時～ - 偶数月 第1水曜日 14時～ - 偶数月 第2水曜日 14時～ - 毎月 第3水曜日 14時～ - 毎月 第1金曜日 14時30分～ - 毎月 第3金曜日 10時～ （その他、職員による面接相談も随時実施） <債務整理相談> - 毎月 第2金曜日 14時～
担 当	非常勤の特定相談員（医師、精神保健福祉士、ピア相談員、司法書士）

イ 相談実績

(ア) 相談件数（相談来所者の男女別内訳）

	実件数	延件数
男 性	38	38
女 性	45	47
計	83	85

(イ) 相談対象者の男女別年齢構成（初回来所時）

	～20歳	21～30歳	31～40歳	41～50歳	51歳～60歳	61歳～	不明	計
男 性	2	15	19	14	11	14	1	76
女 性	0	2	2	0	2	1	0	7
計	2	17	21	14	13	15	1	83

(ウ) 来所経路（初回来所時）

自 発					紹 介			計
	保健センター	インターネット	その他	不 明		保健センター	その他	
77	3	48	15	11	6	1	5	83

(エ) 初回相談時の来所者（初回来所時）

家族のみ	相談対象者(本人のみ)	本人と家族	その他	計
49	18	9	7	83

(オ) 依存対象別相談件数 （件数には重複使用を含む）

アルコール	覚せい剤	大 麻 (マリファナ)	危険ドラッグ	処方・ 市販薬	ギャンブル	買い物
30	5	1	1	2	29	6
性依存	摂食障害	タバコ	インターネット	ゲーム	その他	
1	1	0	1	2	12	

(カ) 初回相談時の処遇（件数には重複使用を含む）

病院・診療所を紹介	自助グループを紹介	センターのみで 終結・助言	その他
26	21	42	13

(キ) ピア相談内訳

区分	断酒会	ダルク	ギャマノン	計
開催回数	12	12	6	30
相談件数	8	16	6	30

(2) 一般来所相談

ア 概要

当センター常勤職員の保健師、精神保健福祉相談員、依存症相談員が実施するもの。

イ 相談実績

(ア) 相談件数（相談来所者の男女別内訳）

	実件数	延件数
男 性	50	69
女 性	3	3
計	53	72

(イ) 相談対象者の男女別年齢構成（初回来所時）

	～20歳	21～30歳	31～40歳	41～50歳	51歳～60歳	61歳～	不明	計
男 性	0	10	26	10	1	1	2	50
女 性	2	0	1	0	0	0	0	3
計	2	10	27	10	1	1	2	53

(ウ) 来所経路（初回来所時）

自 発					紹 介			計
	保健センター	インターネット	その他	不 明		保健センター	その他	
53	2	35	16	0	0	0	0	53

(エ) 初回相談時の来所者（初回来所時）

家族のみ	相談対象者(本人のみ)	本人と家族	その他	計
8	40	4	1	53

(オ) 依存対象別相談件数（件数には重複使用を含む）

アルコール	覚せい剤	大 麻 (マリファナ)	危険ドラッグ	処方・ 市販薬	ギャンブル	買い物
2	2	0	0	3	42	1
性依存	摂食障害	タバコ	インターネット	ゲーム	その他	
1	0	0	0	3	0	

(カ) 初回相談時の処遇（件数には重複使用を含む）

病院・診療所を紹介	自助グループを紹介	センターのみで 終結・助言	その他
7	5	21	30

(3) 依存症相談窓口専用電話

区分	実人員	延人員											
		高齢期	社会復帰	アルコール	薬物	ギャンブル	ゲーム	思春期	心の健康づくり	摂食障害	てんかん	その他	計
計	709	1	7	248	101	268	31	29	35	2	0	237	959

(4) 依存症相談拠点相談件数

区 分	アルコール	薬物	ギャンブル	その他	計
相談件数	276	113	364	363	1,116

※特定相談、一般相談、電話相談、文書相談等の合計件数を記載

依存症支援者研修

1 依存症基礎講座

(1) 趣旨

依存症問題に関わる保健センター職員を始めとする関係機関職員を対象に、依存症の知識を深め、相談技術の向上、関係機関との連携による支援の視点を学ぶことを目的として研修を開催するもの。

(2) 実績

対 象	依存症問題に関わる下記の市域関係機関職員 - 各区保健センター - 各区福祉課、民生子ども課保護係、支所区民福祉課 - 障害者基幹相談支援センター - いきいき支援センター等
参加延べ人数	52名
<第1回>	
実 施 日	12月15日
実 施 方 法	会場開催 (会場：名古屋市精神保健福祉センター)
内 容	ア 「依存症の基礎知識と関わり方」 講師：刈谷アディクションセンター長 菅沼 直樹 氏 イ 「自助グループ活動からの関わり」 講師：名古屋ダルク 倉地 光 氏
参 加	26名
<第2回>	
実 施 日	12月18日
実 施 方 法	会場開催 (会場：名古屋市精神保健福祉センター)

内 容	ア 「アディクションの捉え方と連携の必要性～ソーシャルワークの必要性～」 講師：日本福祉大学 福祉経営学部 医療・福祉マネジメント学科 田中 和彦 氏 イ 「依存症に関する取り組みと連携について」 講師：藤田メンタルケアサテライト徳重北 池戸 悦子 氏
参 加	26名

2 ギャンブル問題関係者研修

(1) 趣旨

ギャンブル問題に関わる職員を対象に、ギャンブル問題について正しく理解し、適切な対応方法を身につけることを目的に研修を実施するもの。

(2) 実績

対 象	債務の相談機関、精神科医療機関、公営ギャンブル組合及び愛知県遊技協同組合等の団体、健康福祉局健康増進課、障害者基幹相談支援センター保健センター、民生子ども課、支所区民福祉課
実 施 日	2月13日
実施方法	オンライン
内 容	講義1：医療機関での取り組み ～西山クリニックでの支援について～ 西山クリニック 精神保健福祉士 内藤千昭 氏 講義2：ギャンブル障害への理解と治療や支援について 埼玉県立精神医療センター 精神科医 山谷千尋 氏 講義3-1：本人が望む支援とは ～本人が知ってほしいこと～ GA (GAMBLERS ANONYMOUS) 講義3-2：家族が望む支援とは ～家族が知ってほしいこと～ GAM-ANON (ギャマノン)
参 加	29名

依存症に関する普及啓発および情報発信

1 依存症相談窓口の普及

(1) 趣旨

依存症のご本人やご家族、支援関係者等を対象に、依存症相談窓口の情報を提供するチラシ（「依存症相談窓口チラシ」）を発行するもの。

(2) 実績

ご本人ならびにご家族、また各種研修の開催時や会議の場において、関係機関職員向けに配布。併せて、広く市民を対象とし参加者が多い「依存症講演会」及び「アディクション・セッション」においても配布を行った。

2 依存症リーフレット

(1) 趣旨

依存症の問題に悩んでいるご本人やご家族等を対象として、治療や対応のポイント、自助グループや相談窓口の情報等を掲載したリーフレットを発行するもの。

- ・「依存症って何」「NAT-Gのご案内」「依存症家族のつどい」「依存症家族教室」「依存症相談窓口」

(2) 実績

ご本人ならびにご家族、また各種研修の開催時や会議の場において、関係機関職員向けに配布。併せて、広く市民を対象とし参加者が多い「アディクション・セッション」「依存症講演会」においても配布を行った。

3 名古屋市嗜癮問題支援機関リスト

(1) 趣旨

嗜癮問題に関する支援を行っている名古屋市内外の機関・団体の情報を集約しご本人やご家族などに公開し提供することで、支援を必要としている方が適切な支援につながることを目的として作成するもの。

(2) 実績

令和5年度は、関係機関への送付、ホームページでの掲載及び薬物問題関係機関連絡会議、依存症相談の来所者等への配布を行った。

4 アディクション・セッション

(1) 趣旨

アルコールや薬物、ギャンブル等いわゆる嗜癮問題からの回復を目指す自助グループや支援機関から「現在に至るまでの体験談」や「アディクションに対する自身の想い」、また「各機関における依存症に関する取り組み」などに関する発表を行うことで、市民に理解を深めていただく機会とする。また、参加機関同士の横のつながりや、今後の支援ネットワーク体制構築の一助とする。

(2) 実績

観覧対象	自助グループ等、医療機関、福祉機関、区役所・保健センターなどの機関において嗜癮問題に関わる地域関係職員、ならびに一般市民
実施日	11月11日
会場	名古屋市中村文化小劇場
内容	ア 自助グループ及び支援機関からのメッセージ イ まとめ講演 講師：ひいりんぐ工房とぼす 臨床心理士 西野 敏夫 氏
申込団体	18団体
参加	114名

5 依存症講演会

(1) 趣旨

依存症相談拠点として、依存症についての普及啓発をすすめることを目的として実施するもの。

令和5年度は会場開催と、当日の講演を撮影した画像を、講演者である山口達也氏から別途いただいたメッセージとともに「ここらぼのYouTubeチャンネル」にて配信した。

(2) 実績

対 象	名古屋市内在住・在勤（学）の依存症に関心のある方
実 施 日	会場開催：令和5年11月24日 YouTube配信期間：令和5年12月11日～令和6年3月29日17時
内 容	テーマ：「山口達也さん依存症を語る」 講演者：山口達也氏（株式会社山口達也 代表取締役）
参 加	279名
YouTube 再生回数	2,768回

なごやギャンブル障害回復トレーニングプログラム（NAT-G）

1 趣旨

自身のギャンブル等（パチンコやパチスロ、競馬、競艇、競輪、オートレースその他の射幸行為）の楽しみ方を改めたいと希望する方が、ギャンブルに頼らない生活の実現を目指し、自分らしい生き方を取り戻すよう援助するもの。

2 概要

(1) 対象者

- ア 自身のギャンブル等の楽しみ方を改めたい方
- イ 事前面接の結果、本プログラムを受けることが適当と認められる方

(2) 実施期間等

- ア 頻度 月1回程度、個別または集団で実施
- イ 時間 1回につき2時間程度

(3) 修了基準

- 第1回～第5回のプログラムに参加された方
- ＊修了者には「修了証」を配布

(4) 費用

無料

(5) 内容

第1回	あなたのギャンブルについて整理してみましょう
第2回	引き金から再開にいたる道すじと対処
第3回	再開を防ぐために
第4回	私の道しるべ
第5回	回復への道のり
第6回	【アンコールセッション】回復のために～正直さと仲間～

(6) 定員

1 回につき 6 名程度

3 実績

参加者数（主なギャンブル等の種目別内訳）

	主なギャンブル等の種目					合計
	パチンコ スロット	競馬	競艇	カジノ	その他	
実人数	10	5	2	4	1	22
延人数	21	12	2	5	1	41

※うち年度内の初回修了者 2 名

依存症家族教室

1 趣旨

身近な方のアルコール・薬物・ギャンブルに関する問題でお困りの方を対象に、精神科医師の講話や当事者・家族らの体験談等を通して、依存症についての正しい知識を身につけ理解を深めることを目的とするもの。

2 実績

第1クール	実施日	内 容	講 師	参 加
第1回	6月28日	アルコール・薬物・ギャンブル 依存症について	西山クリニック	28名
第2回	7月28日	本人の体験談 家族の体験談	薬物・ギャンブル依存症当事者/ 当事者の家族	14名
第3回	8月25日	本人の体験談 家族の体験談	アルコール・ギャンブル依存症 当事者/当事者の家族	18名
第2クール	実施日	内 容	講 師	参 加
第1回	9月26日	依存症と家族の心	アディクションカウンセラ ー	14名
第2回	10月24日	アルコール・薬物・ギャンブル 依存症について	精神科医師	19名
第3回	12月14日	精神看護学から見た家族 支援	人間環境大学 看護学部看護学科 助教授	17名
延べ人数合計				110名

依存症家族のつどい

1 趣旨

依存症の問題を抱える方のご家族を対象に、家族相互の交流、情報交換を図ることを目的として開催するもの。

2 実績

対 象	平成30年度以降に、薬物・アルコール・ギャンブル等の依存症相談で来所されたご家族				
会 場	名古屋市精神保健福祉センター				
内 容	CRAFT勉強会と交流会を実施				
実施日		前期 ＜第1クール＞	参加	後期 ＜第2クール＞	参加
	第1回	4月10日	11名	10月2日	4名
	第2回	5月1日	8名	11月6日	1名
	第3回	6月5日	11名	12月25日	2名
	第4回	7月3日	10名	1月15日	1名
	第5回	8月7日	4名	2月5日	2名
	第6回	9月4日	7名	3月4日	3名
前期小計			51名	後期小計	13名
延べ人数合計					64名

ひきこもり地域支援センター

1 趣旨

専門の「ひきこもり支援コーディネーター」を3名配置し、ひきこもりのご本人やご家族等の面接相談を行うとともに、関係機関との連携強化を目的とした会議や関係機関の職員等を対象とした研修や、パンフレットの発行等ひきこもりに関する普及啓発を行い、ひきこもりのご本人やご家族への支援の充実を図るもの。

2 概要

(1) 名称及び開設

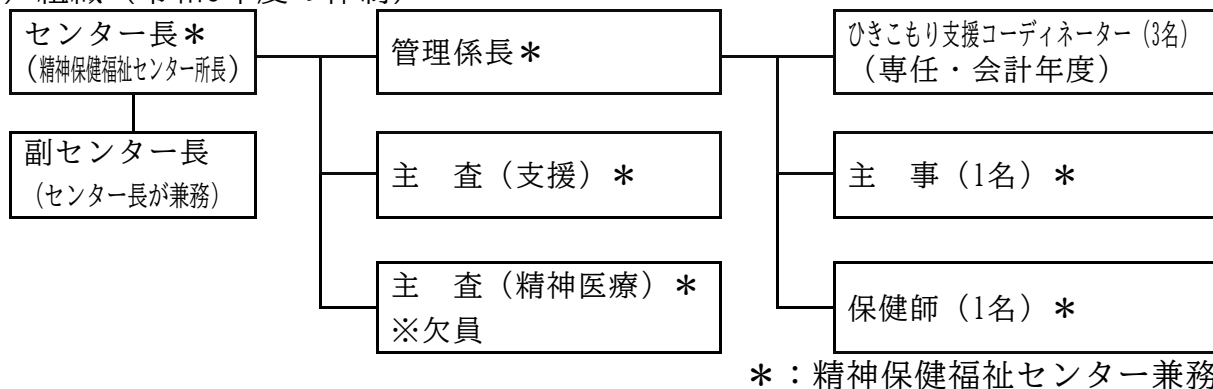
ア 名称：名古屋市ひきこもり地域支援センター

イ 開設：平成24年5月14日

ウ 場所：名古屋市精神保健福祉センターこころば内

エ 時間：月曜日～金曜日 8:45～17:15（祝日・年末年始は除く）

(2) 組織（令和5年度の体制）



3 主な事業内容

(1) ひきこもりのご本人やご家族等を対象とした相談

- ・ 来所相談（初回相談・継続相談・特定相談）
- ・ 電話相談
- ・ 出張相談

(2) ひきこもり支援関係機関との連絡調整等

- ・ ひきこもり支援セミナーの開催
- ・ ひきこもり支援関係団体連絡会議の開催
- ・ 各種事例検討会、ケース会議等への参加

(3) ひきこもりに関する普及啓発および情報発信

- ・ 名古屋ひきこもり支援ガイドマップの作成
- ・ 各種リーフレット、家族向けパンフレット、家族向けコミュニケーションプログラム等の作成
- ・ ひきこもり講演会の開催

(4) 家族支援

- ・ ひきこもり家族教室の開催
- ・ ひきこもりを考える家族のつどいの開催

(5) その他

- ・ ひきこもり支援サポーター養成研修の開催

- ・ひきこもり支援サポーターフォローアップ研修の開催
- ・ひきこもり支援サポーター派遣事業の実施

ひきこもりのご本人やご家族等を対象とした相談

1 趣旨

市内在住のひきこもり状態にあるご本人やご家族等を対象に臨床心理士等の資格を持つ専任のひきこもり支援コーディネーターによる面接相談を実施するもの。

初回面接相談時には、精神科医、保健師、臨床心理士、精神保健福祉士等の多職種による合議を行い、支援方針を決定している。

また、継続相談利用者のうち、何らかの精神疾患が疑われる等、医学的判断が必要であると認められるものについては、特定相談として、精神科医による無料相談を実施している。

2 実施状況

(1) 相談方法

来所相談	初回相談：原則毎週水曜日（予約制） 継続相談：随時 特定相談：毎月1～2回
電話相談	随時
出張相談	訪問、同行などによる相談（※）

（※）すべての方を対象としたものではなく、相談者の状況により相談方法を検討していきます。

(2) 実績

ア 相談件数

相談件数	<内訳>				
	来所相談	電話相談	出張相談	特定相談	債務相談
実（延）	実（延）	実（延）	実（延）	実（延）	実（延）
561（2,488）	175（855）	330（1,526）	24（75）	31（31）	1（1）

イ 相談件数（実）の男女別（相談対象者での計上）

	相談件数	<内訳>				
		来所相談	電話相談	出張相談	特定相談	債務相談
男	425	145	234	20	25	1
女	122	30	82	4	6	0
その他	14	0	14	0	0	0
計	561	175	330	24	31	1

ウ 相談件数の推移

		R1	R2	R3	R4	R5
来所 (特定相談含む)	実	152	156	191	215	207
	延	525	599	679	871	887
電話	実	331	206	260	294	330
	延	525	540	808	972	1,526
出張	実	3	9	26	35	24
	延	8	45	58	103	75
計	実	486	371	477	544	561
	延	1,058	1,184	1,545	1,946	2,488

エ 初回来所者と相談対象者との続柄

本人	母	父	両親	兄弟 姉妹	その他	計
43	79	12	35	1	5	175

(※その他内訳：祖母、夫、義理姉)

オ 相談対象者の年齢構成（初回来所相談時）

15歳未満	15～19歳	20代	30代	40代	50代以上	不明	計
0	17	62	52	31	12	1	175

カ ひきこもりになってからの期間（初回来所相談時）

1年未満	1年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上15年未満	15年以上	不明	計
15	74	36	24	26	0	175

(3) 関係機関連携実績（延数）

福祉事務所	保健センター	子ども・若者 総合相談センター	若者自立支援 ステップ アップ事業	なご サポ	基幹相談 支援センター	いきいき 支援センター	包括的 相談支援 チーム
15	50	14	29	8	21	8	30

医療機関	民間支援団体	仕事・暮らし	就労継続 A型・B型	ハローワーク	就労移行支援	ひきセン金山	そ の 他	計
41	2	20	10	43	18	5	22	336

ひきこもり支援関係機関との連絡調整等

1 ひきこもり支援セミナー

(1) 趣旨

ひきこもりに悩むご本人やご家族等への支援活動を行っている機関・団体等の職員等に対して、ひきこもり支援に関する知識と理解を深め、支援の質を向上させることを目的として開催するもの。

(2) 実績

ア 対象：市内のひきこもり支援関係機関・団体（保健センター・社会福祉協議会・いきいき支援センター・障害者基幹相談支援センター・雇用関係機関・その他関係団体）

イ 開催方法：第1回 対面開催

第2回 オンライン開催

ウ 内容等

実施日	内 容	参 加
第1回 7月4日	講演「ひきこもり体験談&グループワーク」 講師：低空飛行net 代表 フジヤマ氏、副代表 1名 若者支援事業団 理事 菅沼 和司 氏 代表理事 菅沼 功 氏	30名
第2回 7月20日	講演「愛着障害と発達障害の理解と支援」 講師：和歌山大学教育学部心理学教室 教授 米澤 好史 氏	37団体 121名
参加延べ人数		151名

2 ひきこもり支援関係団体連絡会議

(1) 趣旨

ひきこもりのご本人やご家族等への支援活動を行っている団体等と関係行政機関の連携を強化することを目的として開催するもの。

(2) 実績

目 的	行政機関及び支援団体からの活動報告及び意見交換等を実施する
実 施 日	1月16日
会 場	名古屋市精神保健福祉センター
内 容	ア 名古屋市より報告 ・名古屋市役所地域ケア推進課 ・ひきこもり地域支援センター ・ひきこもり地域支援センター金山 イ グループワークおよび意見交換 各ひきこもり支援団体および行政機関の取り組み状況や課題について共有し、今後の連携について意見交換した。
参 加	39名（28機関） 内訳：行政機関等17名（7機関） ひきこもり支援団体22名（21団体）

1 名古屋ひきこもり支援ガイドマップ

(1) 趣旨

ひきこもりのご本人やご家族、支援関係者等を対象に、ひきこもり支援団体等の概要や相談窓口の社会資源等の情報を提供するガイドマップを発行するもの。

(2) 実績

名 称	令和5年度名古屋ひきこもり支援ガイドマップ
対 象	ひきこもりのご本人やご家族、関係機関
発 行 部 数	3,500部
発 行 月	令和5年10月

2 家族向けパンフレット

(1) 趣旨

ひきこもりの問題に悩んでいるご家族等を対象として、基本的な対応方針やコミュニケーションのポイントやひきこもりからの回復過程、支援機関に誘うタイミング、相談窓口の情報等を掲載したパンフレットを発行するもの。

(2) 実績

令和5年度は、相談に来所したご家族と活用したり、各関係機関に配布したりした。

3 ひきこもり地域支援センター周知用リーフレット

(1) 趣旨

名古屋市ひきこもり地域支援センターについて、市民や関係機関への周知を広く行うため、周知用のリーフレットを発行するもの。

(2) 実績

令和5年度は、各種事業や会議等開催時に相談者や関係機関等へ配布した。

4 家族向けひきこもりコミュニケーションプログラム

(1) 趣旨

ひきこもりの問題に悩んでいるご家族等を対象として、①今の状況を客観的に評価する、②ご家族の生活にゆとりを取り戻す、③ご本人とのコミュニケーションの取り方を学ぶことを目的としたプログラムを発行するもの。

(2) 実績

令和5年度は改訂版を4,000部発行し、相談に来所したご家族や各関係機関に配布し、「ひきこもりを考える家族のつどい」でも活用した。

5 ひきこもり講演会

(1) 趣旨

ひきこもりに関する問題や、ひきこもりのご本人やご家族等の心情への理解を深め、家族・支援者・地域それぞれの立場でできること等を考える機会とし、ひきこもり地域支援センター等へ早期に相談するきっかけとなることを目的として

開催するもの。

平成24年度のひきこもり地域支援センター開設以降、ひきこもりに関する相談は増加していることから、更なる普及啓発活動をすすめるため、平成19年度から3年間開催していたひきこもり講演会を平成27年度から再開し、以後毎年実施している。

(2) 実績

対 象	名古屋市内在住・在勤（学）のひきこもり支援に関心のある方
実 施 日	9月16日
会 場	名古屋市中村文化小劇場 ホール
内 容	講演 「ひきこもり・8050～親、きょうだい、本人が『今』しておきたいこと～」 講師：特定非営利活動法人 KHJ全国ひきこもり家族会連合会 深谷 守定 氏 一般社団法人OSDよりそいネットワーク 馬場 桂子 氏
参 加	137名

6 ひきこもり地域支援センターロゴマーク及び啓発物品の作成

(1) 趣旨

当センターの認知度を高めるため、ひきこもり地域支援センターロゴマーク及び啓発物品を作成し普及啓発するもの。

(2) 実績

令和6年3月にロゴマーク及び普及啓発品（3種）を作成し、市ウェブサイトへロゴマークの掲載、各種会議や事業開催時に普及啓発品を配布した。

ひきこもり家族教室

1 趣旨

ひきこもり地域支援センターへの相談に結びついているご家族に限らず、広くひきこもりに悩むご家族を対象に、ひきこもりに関する正しい知識を学び、家族としてできることや本人へのより良い対応を考える機会を提供するもの。

2 実績

実 施 日	内 容	参 加
第1回 10月12日	(1) 講話「ひきこもりの理解と対応」 講師：ひきこもり地域支援センター職員 (2) 交流会	11名
第2回 10月27日	(1) 講話「ひきこもりと精神科医療」 講師：名古屋大学 総合保健体育科学センター 准教授 古橋忠晃 氏 (2) 交流会	13名

第3回 11月21日	(1) 講話「ひきこもり経験者・家族からのメッセージ」 講師：低空飛行 net 特定非営利活動法人 なでしこの会 (2) 交流会	12名
第4回 12月11日	(1) 講話「支援機関を知ろう」 講師：特定非営利活動法人 オレンジの会 名古屋市仕事・暮らし自立サポートセンター金山 (2) 交流会	14名

※第1・3・4回は、ひきこもり支援サポーター養成研修と同時開催とした。

ひきこもりを考える家族のつどい

1 趣旨

ひきこもりの問題に悩んでいるご家族を対象に、勉強会や家族同士の交流を通して、ご家族の対応や周囲の関わりについて考え、新しい視点や情報を共有し、ご家族自身が問題を解決する意欲を高めることができるように開催するもの。

2 実績

実施日	内 容	参 加
第1回 4月24日	交流会&テーマについて意見交換	15家族 (15名)
第2回 5月22日	勉強会「今の状況を客観的に評価しよう」&交流会	18家族 (19名)
第3回 6月26日	交流会&テーマについて意見交換	13家族 (13名)
第4回 7月24日	講義「障害者基幹相談支援センターについて知ろう」 & 交流会 講師：障害者基幹相談支援センター	21家族 (23名)
第5回 8月28日	交流会&テーマについて意見交換	13家族 (13名)
第6回 9月11日	生活に役立つセミナー 講話「診療内科・精神科で受けられる医療について知ろう」 講師：精神科医	15家族 (17名)
第7回 9月25日	講義「ひきこもっていても仕事ができる・つながれるCOMOLYの取り組みについて」 講師：株式会社Meta Anchor 山田邦生 氏	31家族 (35名)
第8回 10月23日	交流会&テーマについて意見交換	12家族 (12名)
第9回 11月7日	生活に役立つセミナー 講話「ひきこもり経験者からのメッセージ」 講師：ひきこもり経験者	30家族 (32名)

第10回 11月27日	「オープンダイアログ～体験編～」&交流会 講師：相談室けいこ・ふゆひこ	15家族 (17名)
第11回 12月25日	「オープンダイアログ～知識・情報編～」&交流会 講師：相談室けいこ・ふゆひこ	18家族 (20名)
第12回 1月22日	「オープンダイアログ～実践・応用編～」&交流会 講師：相談室けいこ・ふゆひこ	12家族 (13名)
第13回 2月19日	交流会&テーマについて意見交換	13家族 (13名)
第14回 3月11日	交流会&テーマについて意見交換	12家族 (12名)

ひきこもり支援サポーター養成研修

1 趣旨

一般市民を対象に、ひきこもりに関する問題や、ひきこもりのご本人やご家族等の心情への理解を深め、地域社会でできること等を考えることを目的として実施するもの。平成28年度より実施している。

令和元年度は、民生委員・児童委員及びいきいき支援センター職員を対象として実施したが、令和2年度以降は従前の一般市民を対象とする研修に形式を戻し実施している。

2 実績

実施日	内 容	参 加
第1回 10月12日	(1) 講話「ひきこもりの理解と対応」 講師：ひきこもり地域支援センター職員 (2) オリエンテーション、交流会	12名
第2回 10月20日	(1) 講話「傾聴と話し方」 講師：臨床心理士 小石亜希子 氏 (2) フリーの交流	10名
第3回 11月21日	(1) 講話「ひきこもり経験者・家族からのメッセージ」 講師：低空飛行 net 特定非営利活動法人 なでしこの会 (2) フリーの交流	8名
第4回 12月11日	(1) 講話「支援機関を知ろう」 講師：特定非営利活動法人 オレンジの会 名古屋市仕事・暮らし自立サポートセンター金山 (2) 交流会、登録についての説明	9名

※第1・3・4回は、ひきこもり家族教室と同時開催とした。

ひきこもり支援サポーターフォローアップ研修

1 趣旨

ひきこもり支援サポーターとして登録された方を対象に、ひきこもりに関する問題や、ひきこもりのご本人やご家族等の心情へのさらなる理解を深めることを目的として実施するもの。平成29年度より開催している。

2 実績

実施日	内 容	参 加
第1回 7月4日	ひきこもり支援セミナー第1回への出席	4名
第2回 7月20日	ひきこもり支援セミナー第2回への出席	8名
第3回 1月19日	(1) 講話「傾聴と話し方」 講師：臨床心理士 小石亜希子 氏 (2) 交流会	10名

ひきこもり支援サポーター派遣事業

1 趣旨

ひきこもり支援サポーター養成研修を受講し、ひきこもり支援サポーターとして登録された者を派遣し、ひきこもり事業への参加・協力等を通してひきこもりへの理解を深めるとともに、地域でできることを考え、ひきこもりのご本人やご家族等への支援を行うこと等を目的として実施するもの。

2 実績

日 程	活動内容	派遣人数
令和5年5月～ 令和6年3月	「ひきこもりを考える家族のつどい」における運営補助	延19名
9月16日	「ひきこもり講演会」における運営補助	1名
3月17日	「ひきこもり支援講演会」（ひきこもり地域支援センター金山主催）におけるサポート	4名

名古屋市精神保健福祉センター所報
第23巻 令和5年度版(2023年度版)

発行日 令和6年9月

発行 名古屋市

編集 名古屋市精神保健福祉センター